週刊 YEARBOOK

1923
大正12年

日録20世紀

9|9
平成9年9月9日発行
(毎週1回発行)第1巻第28号
¥560
講談社

資料発掘!
岡田紅陽が撮った「帝都壊滅」

丸ビルにオープンした
「丸の内美容院」のノウハウ

禁酒法下のシカゴで
アル・カポネ売り出す!

関東大震災!

関東大震災——マグニチュード7.9

生きながら人間が燃えた「火焔地獄」

**大正12年9月1日正午直前、関東地方は、マグニチュード7.9の烈震に襲われた。
地盤の弱い東京・下町の家屋は倒壊し、続いて発生した火災は3日間にわたって燃え続けた。
関東大震災による阿鼻叫喚の大混乱の中、忌まわしいデマが流され、
軍隊・警察や自警団によって6000人にものぼる朝鮮人が虐殺されてもいる。**

▼地震直後の日比谷交差点付近。早くも有楽町方面では火の手が上がっている。南風に乗って、火はまたたく間に燃え広がった。 毎日新聞社

火災による被害は史上最大 死者一〇万人、損害一〇〇億

「突然、ゴーというなり声とともに家がぐらぐらとゆれ、あわててガスの火を消した私は足がもつれて尻餅をついた。まわりじゅうの壁がバラバラと落ちて、鍋の中が白くにごった。（中略）また、激しくゆれ、やっとガスの元栓を閉めた私の足元に鍋がひっくり返った。（中略）ちょうど昼飯時だったせいもあって、あっという間に八方から火の手が上がった」

関東大震災が勃発した瞬間の女優・沢村貞子（一四）の回想だ。発生は九月一日午前一一時五八分四四秒、震源は、東京の南東約一〇〇キロの相模灘海底、マグニチュード七・九の烈震であった。大地が生きもののように波打ち、ひび割れた。大人でも立っていられず、這いまわるほか術がなかった。

地震による東京府の全半壊家屋は、三万七〇〇〇戸強にのぼる。だが、震災の恐ろしさは地震自体よりもその後にあった。地震直後に、東京市全一五区の一七八ヵ所から出火した。昼食時で炊事中だったことも出火に拍車をかけた。うち八三ヵ所は鎮火したが、残る九五ヵ所は下町を中心に巨大な炎と化し、行く手を焼きつくしていった。風速一〇メートル以上の強風にもあおられ、最も速い火流は毎時八〇〇メートルにも達し、うち一三の火流は一〇〇万平方メートルを焼失させたのである。

火の手は、人々を四方八方から襲った。火元の多さに加え、水道管が破裂し、消防活動は麻痺状態だった。炎に追われてたどり着いた広場や橋のたもとで、逃げ場を失った人々が大勢焼死した。中でも、最も悲惨な状況を呈したのが本所区（現・墨田区）の陸軍被服廠跡だった。

六万七〇〇〇平方メートルの空き地は、付近の住民のかっこうの避難場と思われた。人々は家財道具を持って詰めかけ、大八車や馬車まで持ちこまれた。中にはふすまで仕切りを作り、遅い昼食を始めるものすらいた。時とともに、後から後から人と家財道具が押し寄せた。身動きすらできなかったことから、避難民の数は四

◎表紙　東京名所の浅草十二階（凌雲閣）は、9階から崩れ落ち、最上階の展望台にいた客など十数人が即死した。 東京都復興記念館提供

▲猛火に包まれた横浜・中区の横浜正金銀行。堅固な建物に避難しようと詰めかけた市民は火焔に襲われ、行内は「此世ながらの活地獄」と化した。 横浜開港資料館蔵

▶浅草六区の三十余の劇場、映画館は全焼した。左手奥の建物は十二階。 毎日新聞社

関東大震災——マグニチュード7

生きながら人間が燃えた「火焔地獄」

▲日比谷方面の火災。焼け出された人々は1万6000人が宮城外苑に、4000人が日比谷公園に、2000人が議院、司法省、裁判所、日比谷小学校に避難した。 共同通信社

万人を超えていたという。だが、この地にも火の手が迫る。火の粉が舞い落ち始めるや否や、音を立てて無数の火の手が上がった。空き地内は大混乱におちいったが、逃げようにも人や家財で動けない。焼死者や転んだ人の上を人が走る。午後四時頃から三回にわたって大旋風が波状的に襲来した。

「そのうちに烈風が起こる。はじめのうちはトタンや布団が舞い上が（り）、見る間に家財や人も巻き上げられた。（荷物を積んだままの馬が）空高く巻き上げられおしつ位の大きさになり、木の葉のようにきりきり舞いして落ちてきた。突然焼けトタンがすさまじい勢いで飛んできた、と同時に、身近で変な音がした。友人が倒れたのだ。起こそうとしたが、意外にも友人の頭部が失われているのに気がついた。焼けトタンは、友人のクビを鋭利な刃物として切ってしまったようでした」（一四歳の小堀政男の回想『関東大震災体験記録集』）

追われて被服廠跡をめざし、大惨事に見舞われた。

毎日新聞社

阿鼻叫喚の中で、空き地に避難していた人々の大半が落命する。その数は推定で約三万八〇〇〇人。一坪に二人近い死者が出た。震災による死者の半数近くがここで落命し、助かったのは、深い水たまりにつかって熱風を避けたり、人の山の下で気絶しているうちに火が去ったなど、僥倖に恵まれた二〇〇〇人余りにすぎなかった。そして府内全域で約九万人が死亡するが、その八割強が焼死や窒息死によるものであった。

根拠のないデマのために朝鮮人六〇〇〇人虐殺

より震源に近かった神奈川県では、東京よりも揺れによる直接の被害が大きく、全家屋の三分の一強にあたる約一〇万戸が全半壊している。横浜のグランドホテル、横浜地方裁判所は、大音響とともに崩れ落ち、外国人を含む多数が圧死した。東海道本線の被害も甚大だった。悲惨なのは、地震発生時に根府川駅に着いた東京発真鶴行き列車だった。機関車が駅に達した途端、大地が揺らぎ、六両編成の客車は完全に宙に浮き、海にまっ逆さまに転落したのである。死者は一三一人と推定されているが、列車、遺体ともに今も伊豆の海底に埋もれたままだ。

烈震の後に襲ったのが火災である。横浜市内の被害は、むしろ東京を上回っていた。市内の全家屋約一〇万戸の六割が焼け、死者も二万三〇〇〇人余り。山の手が焼け残った東京よりも打撃は大きく小田原でも四〇〇〇人強、横須賀で二〇〇〇人強が命を落としている。

一方、根拠のないデマにより、朝鮮人や中国人、そして社会主義者、無政府主義者の虐殺という人災も横行した。九月二日昼頃から「朝鮮人が放火し、井戸に毒を入れている」といった噂が飛びかい、人々は、自警団を作り、竹槍や日本刀を持ち警戒にあたった。東京府下だけで一一四五の自警団があったという。

彼らは、疑わしいと思ったものは容赦なく虐殺した。いろはがるたや教育勅語を言えないものは朝鮮人とみなされ、その中には日本人も含まれていた。演出家の千田是也（一九）も間違えられた一人で、「せんだこれや」はその時の体験をもとに、″千駄ケ谷の朝鮮人″から取った芸名だ。埼玉県本庄市では、警察署にいた朝鮮人を、三〇〇〇人の自警団が襲い、三三人を殺害した。みすず書房『現代史資料 朝鮮人虐殺』の編者の琴秉洞（朝鮮大学校講師）は「被害は関東全域におよび、死者の数は六〇〇〇人にのぼります。こうした事態をひき起こしたのは、日本人の深層心理に朝鮮人をさげすみ、虐待してきた負い目がわだかまっていたからではないか。しかしいまだに日本政府から謝罪はない」と言う。

▶銀座の焼け跡にできた水たまりで身体を洗う女性。日比谷公園では、野天浴場が設けられた。

大火災はなぜ起こったか

▼赤丸は、多数の死者が出た場所。田中小学校敷地1081人、吉原公園490人、横川橋北詰773人、錦糸町駅630人。火災地域内の白地は焼け残った地域。

関東大震災の火災が鎮火したのは、地震からまる2日経った9月3日の朝10時頃だった。そして約3500万平方メートルを焼きつくしている。その面積は東京ドームの2700個分に近い。日本橋区（現・中央区）は100パーセント燃えつき、浅草区（現・台東区）、本所区（現・墨田区）も焼失率90パーセントを超えている。1秒間に228平方メートルが灰になった計算だ。

安政2年（1854）の安政大地震は、関東大震災とほぼ同様な規模で、出火件数は69ヵ所、関東大震災の178ヵ所より少なかった。それにしても関東大震災の死者10万人に対し、安政大地震の死者は3895人とケタ違いに少ない。焼失面積を比較すると、関東大震災の5パーセント強にすぎない。消防力自体は江戸時代より大正時代の方が、格段に強化されていた。にもかかわらず関東大震災が大災害となった裏には、いくつかの理由がある。安政大地震が夜の発生だったこともそのひとつ。大正12年の時点では、民家の密集度も格段に高くなっていた。さらに決定的なのは、近代化だった。石油が使われだしたのをはじめ、薬品による出火が圧倒的に多かったからだ。事実、関東大震災では、東京帝大、陸軍士官学校、蔵前工業はじめ、学校、研究所、病院そのほかから、薬品による出火が相次いだ。さらに死傷者数が激増したのは、避難民が家財道具を持って避難し、この荷物に次々と引火して被害を大きくしたからだ。江戸時代から、地震や大火の際、再三再四にわたり、荷物を持って避難したものは厳罰に処す、とされていた教訓がまたも生かされなかったのである。

発掘!

岡田紅陽が撮った「帝都壊滅」

関東大震災の未公開アルバム 七四年ぶりに日の目を見た"決定的瞬間"

東京都公文書館に、関東大震災の未刊行アルバムが一冊、東京府時代から保管されていた。昨年末、その撮影者が、富士山の美しさを世界に紹介した故岡田紅陽氏であることが判明。被害状況や復旧作業の模様を伝える貴重な写真を、本誌が七四年ぶりに公開する。

東京都公文書館蔵

◀表紙に「大正十二年九月東京府大震災写真帖」とあるが、製作の経緯はいっさい書かれていない。

岡田紅陽
（おかだこうよう）

明治28年、新潟県生まれ。本名は賢治郎。山岳写真家。富士山の撮影を終生のテーマとし、写真集に、『富士』『富士百景』などがある。当時28歳だった岡田氏は、東京府の委嘱を受けて被災地を撮影し、援助物資を送ってくれた国へのお礼のアルバム製作にたずさわっていた。昭和47年に他界。

岡田ち系子提供

岡田紅陽氏撮影の写真は、すべて東京都公文書館提供。日付は撮影日。

大震災直後の惨状

▲9月4日　吉原の焼死体
浅草区の吉原廓内では、地震とともに京町、江戸町など4ヵ所から出火、各所妓楼をいっきょに焼き、界隈の待合、料亭はすべて焼失。

◀9月5日　日比谷付近の焼け跡
有楽町1丁目の通称"山勘横町"から燃え上がった火の手は黒煙を噴き、30分後には交差点近くの警視庁、隣接した帝国劇場も焼け落ちた。

▼9月7日　市谷付近の大亀裂
亀裂は各地で生じ、特に宮城前の凱旋道路、和田倉門前、牛込五軒町停留場、多摩川下流六郷付近の被害が大きかった。

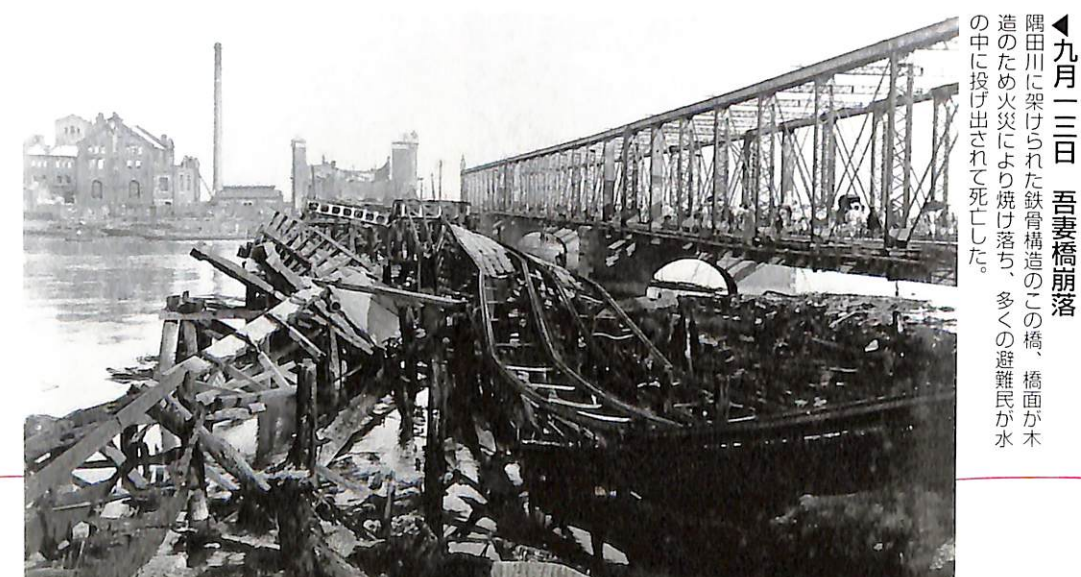
倒壊したビル、崩落した橋

▲9月14日　丸善の倒壊　日本橋通3丁目のこのビル、小型だが頑強と目されていたが、梁や柱の大鉄骨は飴のように熔けて折れ曲がり、その間を瓦礫の山が埋めつくした。

▲9月15日　白木屋呉服店の残骸
目抜きの繁華街、日本橋交差点付近。石造とばかり見えたが実は木造で、いっきょに焼け落ち跡形もなくなった。

▲9月13日　歓楽境・浅草焼失
娯楽の殿堂·観音劇場は見るかげもなく倒壊。遠方にある通称十二階は、その後陸軍工兵隊により爆破された。

▲9月12日　崩落した内外ビルディング
丸の内の郵船ビル裏手。ビルは工事が8割方進んでいたが、自然石がもろくも崩れ落ち作業員300人が圧死した。

▲9月15日　築地精養軒の焼け跡
歌舞伎座は外観をとどめたが、精養軒は焼失。東京市内の料理店では、亀清楼、新喜楽なども焼け落ちた。

◀九月一三日　吾妻橋崩落
隅田川に架けられた鉄骨構造のこの橋、橋面が木造のため火災により焼け落ち、多くの避難民が水の中に投げ出されて死亡した。

救援を待つ罹災者たち

▲9月17日　砂町小学校の避難民　南葛飾郡（現・江東区）でも、倒壊をまぬがれた小中学校が避難所に早変わり。数多くの迷子たちも着の身着のまま収容された。

▼10月7日　大仏の首が破損
上野精養軒前の大仏は首が抜け落ち、上野公園内にある西郷隆盛の銅像同様、身体には立ち退き先や尋ね人の札が貼りつけられた。

▲9月18日　品川沖に結集した軍艦
海軍省は芝浦―清水港間に輸送路を開き、軍艦「浅間」「八雲」「陸奥」などが、避難民や援助物資の輸送にあたり、芝浦はごったがえした。

▲9月18日　宮城前の天幕生活者
焼け出された人々は、広場や空き地に集まって焼け残った資材でバラックを作り、軍が建てた15万人分のテントで雨露をしのいだ。

▲9月27日　永代橋の復旧工事
隅田川河口の永代橋も避難民であふれ、橋が炎上すると人々は川に飛びこみ溺死。陸軍工兵隊の手によって修復工事が行われた。

▲9月21日　転倒した四十七士の墓石
芝区泉岳寺境内の墓地。西蓮寺、正満寺、龍源寺などの寺院、慶応大学、明治学院大学も罹災し、区内では増上寺が避難民であふれた。

女たちの肖像

美貌の人妻・波多野秋子 軽井沢心中で押された〝妖婦〟〝魔性の女〟の烙印

稲葉真弓

この年の七月六日、男女の縊死体が軽井沢の別荘で発見された。男性は著名な作家・有島武郎（四五）、相手は、人妻の「婦人公論」記者、波多野秋子（二九）だった。二人の死体は死後一ヵ月を経ており、新聞各紙は無残な腐爛状態を詳細に伝えた。

有島武郎は「白樺派」の作家として知られ「生れ出づる悩み」「或る女」「一房の葡萄」などヒューマンな作品を次々と発表、私生活では、妻を亡くした後再婚もせずに三児の育児に専念するなど、真摯な人柄が共感を呼び、多くのファンを得ていた。その人道主義者の有島を死の道連れにした秋子への批判はすさまじく、世間は〝妖婦〟〝魔性の女〟と彼女を糾弾した。

秋子は明治二七年一〇月、実業家の林謙吉郎と新橋の芸者、新吉との間に庶子として生まれた。父の経済力で何不自由なく育ち、四五年津田英学塾（現・津田塾大学）に入学。大正三年一九歳の時、英語塾を開いていた波多野春房と結婚した。結婚後は青山女学院（現・青山学院大学）英文科に転学。七年、卒業と同時に中央公論社に入社、「婦人公論」の記者となったが、折しも「青鞜」などによる女性解放運動がさかんな頃、彼女も夫の理解のもと、職業婦人をめざしたのである。

コケットリー、牡丹の花、雌蜘蛛、蛇の指輪をした女……いずれも秋子を評した言葉だが、その美貌と男心をそそるもの憂い視線は文壇の話題になり、原稿を依頼すれば書かない作家はいなかったという。一一年春、秋子の原稿依頼を受けた有島もその一人で、親しい友人に「ある婦人記者が美貌でもってぼくを誘惑しに来る」と打ち明けている。

二人の密通を知った春房は不祥事を金で解決しようとし「ただでは妻を渡せない。代金をよこせ」と一万円を要求、有島が「命をかけた女を金には換算できない」と突っぱねた話は有名だが、関係はすでにぬきさしならぬものになっていた。当時では珍しく職業婦人をめざした勝ち気な女が、女性解放運動の時流に逆行した形で古典的な死を選び、その決死の愛が「腐爛」を余儀なくされ、しかも世間の糾弾をあびたのは皮肉だが、〝魔性の女〟の烙印は死後も消えなかった。有島の葬儀は盛大だったが、秋子の葬儀は参列者数人。遺骨は女中が持つという寂しいものだった。

◀新聞はこの心中事件を連日報道。「婦人公論」も、「情死事件批判」と題する特集を組んだ。

勝者・敗者

相手チームの先制点は望むところ 逆転逆転で、甲陽中初出場初優勝

阿部珠樹

大正四年に始まった全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高校野球選手権大会）は、年々人気を増し、この年も兵庫県西宮市の鳴尾球場には連日、多くの観衆が詰めかけていた。

この年の本大会に駒を進めたのは全部で一九校。大会の前評判は、愛媛の松山商業が圧倒的に高かった。後に早稲田からプロ野球に進み、巨人、阪神などで名監督と呼ばれるようになるエース藤本定義は、四年連続して鳴尾のマウンドを踏み、経験十分、不動の本命と見られていたのだ。

ところが、松山商業は緒戦となった二回戦の兵庫・甲陽中学との一戦で早くも姿を消す。八回までリードしながら、九回、藤本が、甲陽の四番打者・岡田貴一に痛恨の逆転スリーランをあび、うっちゃられてしまったのだ。

優勝候補の名門を破った甲陽は創立五年たらずの新興校。強豪ぞろいの兵庫県を勝ち抜いてはいたが、これといって目立った選手はおらず、前評判は低かった。しかし、一回戦の宇都宮中学に続き、松山商業を逆転で破ったことでチームは一気に波に乗る。続く準々決勝、準決勝と勝ち進み、決勝は前年の優勝校、和歌山中学と激突する。地元の活躍に、観客は熱狂、準決勝などはスタンドに観客があふれ、試合が一時間半も中断する騒ぎとなった。これが翌年の、甲子園球場誕生の直接の引き金になったと言われている。

決勝戦は、一回の裏、和歌山の先制で幕を開ける。しかし、一点ぐらいリードされても、勢いに乗る甲陽はひるまなかった。ここまでの四試合中三試合が逆転勝ち、相手の先制は望むところだったのである。四回表、甲陽にチャンスが来る。二つの四球で圧力をかけ、三塁打、さらにタイムリーとたたみかけて四点を奪い逆転、九回にも追加点をあげ、守っては五連投をものともせず、エース宇井正吾が和歌山の反撃を抑え、五対二で逃げきった。

戦後の高校野球ではPL学園が「逆転のPL」の異名をとったが、甲陽はさしずめそのはるかな先達と言えるかもしれない

▲甲陽中学を優勝に導いた、四番の強打者・岡田貴一のバッティング。　朝日新聞社

朝日新聞社

▲東京—大阪間で定期航空輸送を開始（1月11日）朝日新聞社が東西定期航空会を設立、毎週1回、両地から郵便物などを無料で運んだ。使用機は単発複葉機、約4時間の飛行だった。

▼仏・ベルギー軍、工業地帯ルールを占領（1月11日）経済破綻のため、ベルサイユ条約で課された賠償金の支払いを滞納するドイツに対し、両国はその見返りとして産業拠点を奪った。

「国際画報」

▲初の全国高校サッカー大会（1月4日）東京帝大主催の第1回全国高校アメリカ式蹴球大会と銘打って、東京高等師範学校の校庭で行われ（写真）、8校が参加、早大学院が優勝した。

「国際画報」

◀福岡市で大火（1月17日）未明に電話交換局工事小屋から出火、炎は中洲一帯に広がり、市最古の西洋館である商業会議所など53戸を全焼した。写真遠景は焼失した活動写真館。

「国際画報」

「国際画報」

◀力士会、待遇改善要求（1月12日）10日給金アップなどを要求して協会側と対立、東京・三河島に籠城した。この日、関取なしで催された春場所初日をしり目に、横綱・大関をのぞく78人が三河島に稽古用の土俵を急造した（写真）。紛争は17日協会が譲歩し解決した。

▼宝塚少女歌劇場が焼失（1月22日）午前3時、阪神急行電鉄経営の兵庫県宝塚新温泉余興場の木造第1歌劇場から出火、浴場のみを残して第2歌劇場など全建物を失った。

「国際画報」

大正12年1月

1（月）●菊池寛主宰の月刊誌「文藝春秋」創刊。

2（火）●連合国、パリで第一次大戦に関する独への賠償会議開催（4日英仏が対立し決裂）。

3（水）●東京市電の三ヵ日の乗客は好天に恵まれ三九四万人で、前年より四八万人の増加。

4（木）●岡山県藤田農場で、小作人五〇人を検挙。

5（金）●総同盟大阪連合会、産児制限運動開始を決議。

6（土）●少年法に基づく少年審判所、東京・大阪に開設。

7（日）●虫歯のある東京の児童は四四～八八％で地域差が大きく、裕福な家庭に多い、と新聞に。

8（月）●栗島すみ子主演の「船頭小唄」封切。

9（火）●東京・下谷の新春大賭博で一八人検挙。

10（水）●東京大相撲の力士、待遇改善を要求し三河島の旅館に籠城（17日横綱大錦の引退で和解）。

11（木）●朝日新聞社、東京—大阪間の定期航空開始。

12（金）●東京大相撲春場所、関取の出場拒否のため幕下以下の力士で開幕（17日本場所中止）。

13（土）●東京・日本橋に市営公衆食堂開業。定食一〇銭、肉うどん一五銭、コーヒー五銭。

14（日）●伊国王、ファシスト国防義勇軍（黒シャツ隊）を国防軍として正式に認める。

15（月）●埼玉県中条村の小作争議で、板挟みの村長と助役は辞職、小作人の児童は同盟休校を実施。

16（火）●水戸徳川家で大量のキリシタン関係資料発見。

17（水）●東京府、進学難緩和のため府立中・女学校の定員を二〇〇人増の一〇〇〇人と発表。

18（木）●英国BBC、ラジオ放送を開始。

19（金）●「主婦の友」「家庭雑誌」「新女性」の三婦人誌の告白記事が猥褻として発禁処分。

20（土）●普通選挙即時断行全国記者同盟大会を開催。

21（日）●本因坊と方円社が合併し日本棋院が発足。

22（月）●宝塚少女歌劇団の第一、第二歌劇場が焼失。

23（火）●閣議、一割削減の一二年度予算案を決定。

24（水）●京都帝大講師・山本宣治、松江高女で小中女子学校教師に「性教育」について講演。

25（木）●日刊「アサヒグラフ」創刊（11月から週刊）。

26（金）●孫文とソ連特命全権大使ヨッフェ、上海で共同宣言を発表。中国国民党支援を表明。

27（土）●この春の流行色は、原色のケバケバしい色から明るく着実なものになる、と新聞に。

28（日）●尾道市で映画上映中に火災。観客一九人死亡。

29（月）●農商務省、農家経済の実態調査を決定。

30（火）●秩父セメント設立。社長・諸井恒平。

31（水）●東京・深川に労働者用の無料宿泊所完成。

ニュース・ファイル 1923

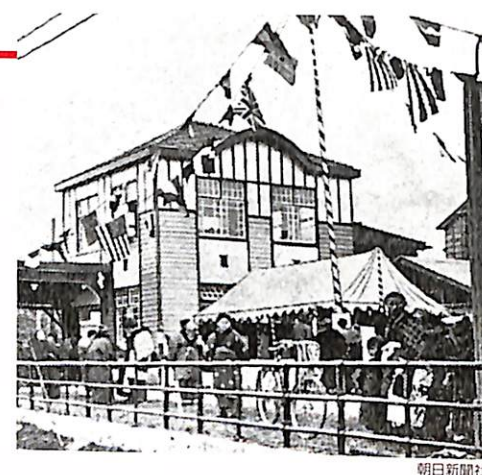
フォト＋日録で再現する365日

第一次大戦後の不況と、関東大震災のダブルパンチを受け、日本経済は暗雲に包まれた。しかし、その後の“帝都復興”は、かえって景気回復を呼び寄せ、かたわら女性の衣服の洋装化に象徴されるように、暮らしの洋風化が急速に浸透していった。

◀洋髪「耳かくし」流行（1月）洋風化の波が生活の細部に浸透し始めた。女性の髪型で目立ったのはマーセルウェーブの耳をかくすようにした髪型（写真）。衣服も震災以降、次第に動きやすい洋服に変わっていった。

毎日新聞社

「国際画報」

◀▼**普通選挙即行要求の叫び(2月23日)**東京の芝公園に婦人参政同盟の女性たちを含む約2万人が参集した。集会後、尾崎行雄・浜田国松・三木武吉(写真下左から)・河野広中らを先頭に銀座などをデモ行進。その熱意は山本首相に実施を約束させ、2年後に実現した。しかし、女性の参政権は持ちこされた。

「国際写真情報」/国際フォト

◀**本格的鉄道電化へ向け試運転(2月2日)**前年、議会で東京—神戸間の電化が承認されたのにともない、鉄道省は東京—中野間で英国から輸入した電気機関車の試運転を行った。東海道本線の電化工事は大正14年から。

▼**アメリカから大観光団(2月27日)**807人がカナダの汽船で横浜港に到着。翌日から東京見物、日光や京都などの名所旧跡をめぐった。写真は東京駅前で人力車に乗る一行。

▼**失業者に施米(2月6日)**東京・深川富川町で、労働救済本部が不景気のため職のない労働者に、一人当たり2升の白米を配布した。写真は引換券で米を求める群衆で大混雑になった「白米救済所」。

朝日新聞社

「国際画報」

▼**後藤新平(左)とヨッフェが会見(2月1日)**東京市長とソ連特命全権大使が右翼団体の激しい妨害の中、両国関係修復への道を模索。翌々年の日ソ基本条約調印に向け、重要な役割をはたした。

朝日新聞社

大正12年2月

1(木)●ソ連のヨッフェ、東京市長・後藤新平の招きで東京着。日ソ復交につき後藤と会見。

2(金)●婦人連盟など各派、婦人参政同盟を結成。

3(土)●不景気や郡部の発展で転出者が多く児童数減少、東京市内の小学校はガラ空き、と新聞に。

4(日)●全国商工業者大会、営業税全廃要求を決議。

5(月)●東京婦人ホーム、女中のための夜間学校開設。

6(火)●海軍航空隊、横須賀—八丈島往復飛行に成功。

7(水)●ソウルで総督府爆破を計画したとして、朝鮮独立をめざす「義烈団」員一四人を逮捕。

8(木)●東京にこの年二度目の大雪。二五センほど積もり、二二両の除雪電車が五〇回以上脱線。

9(金)●内務省調査で農民の九〇%に寄生虫と新聞に。

10(土)●小樽で第一回全日本スキー選手権大会開催。

11(日)●日本郵船の新鋭高速客船「長崎丸」が、上海に向け長崎港を出発。長崎—上海間航路開設。

12(月)●衆議院、憲政会提出の陸軍縮小決議案を否決。

13(火)●陸軍の冬期自動車行軍実験部隊、東京から碓氷峠・和田峠を越えて下諏訪へ到着。

14(水)●東京では渇水で電力危機。降雨がなければ市電ストップ、全市停電もありうる、と新聞に。

15(木)●高橋新吉『ダダイスト新吉の詩』刊行。

16(金)●東京帝大の寺島成信、日本初の経済学博士に。

17(土)●前年の砂糖消費量は前々年比約一割増。特に精製糖など「上物」の伸びが大、と新聞に。

18(日)●三月開局予定の大阪無線電信局、ヨーロッパからの音声を明瞭に受信。

19(月)●東京の市郡視学協議会、中学入試のための小学校の課外授業は容認すべき、と結論。

20(火)●東京・丸の内に「丸ビル」完成。

21(水)●広東で孫文が大元帥に就任(第三次広東政府)。

22(木)●英海軍パイロット、W・ジョーダン、航空母艦「鳳翔」で日本初の離着艦実験に成功。

23(金)●東京で、普通選挙即時断行を要求し、二万人が集会とデモ行進。

24(土)●東京府、女子教員を集め消費経済講演会開催。

25(日)●内務省と東京市が、住宅地域・工業地域など都市計画の地域割りで基本合意、と新聞に。

26(月)●東北帝大理学部で、二教授の反目から同じ構造の研究室二棟新築の醜態、と新聞に。

27(火)●警視庁、消防組規則を改正、纏など廃止。郡部では町火消しの流れをくむ私設消防を禁止。

28(水)●「帝国国防方針」改訂を裁可。仮想敵国を米・ソ・中の順とする。

「国際画報」

▲**軍縮の余波、軍楽隊解散(3月25日)**海軍軍備制限の影響を受けて、大阪第4師団軍楽隊の解散が決定。この日、天王寺公園音楽堂で最後の演奏会を行った。写真は演奏後、楽焼きの碗にサインする隊員たち。

▼**関東水平社誕生(3月23日)**前年、京都に全国水平社ができたのを契機に、次々に地方支部が作られた。この日、群馬県太田町に約5000人が集合し創立大会を開催。「人間性奪還の時」を確認しあった。

「国際画報」

朝日新聞社

▲**巡洋艦軽量化の画期「夕張」進水(3月5日)**海軍造船少将・平賀譲が設計。排水量2890トンながら5500トン級と同様の戦力を装備。平賀設計の傑作と言われたが、昭和19年、パラオ近海で米潜水艦に撃沈された。

▼**イギリスのオペレッタ、来日公演(3月25日)**東京・丸の内の有楽座にギルバート・サリバン喜歌劇団が出演、気持ちのいいほどそろった美しいコーラスと、滑稽なせりふで観客を魅了した。写真は東京駅に着いた一行47人。

「国際写真情報」/国際フォト

「国際写真情報」/国際フォト

朝日新聞社

▲**目黒—丸子間電車走る(3月11日)**目黒蒲田電鉄(現・東急電鉄)が、実業家・渋沢栄一が構想した東京府調布村の田園都市住宅街と、山手線を結ぶ路線を敷設。この日、洗足池停留場前で開通式を行った。

▼**美貌と美声の「椿姫」サラ・ベルナール死去(3月26日)**世界的名声を得ていたフランスの舞台女優で、78歳だった。写真は30日のパリでの国葬。8キロもの葬列が続き、75万人が見送った。

大正12年3月

1(木)●衆議院、普選法案を否決(六回目の否決)。

2(金)●京都市で第二回全国水平社大会開く。

3(土)●東京・銀座に酒を出さず、軽食と喫茶で婦女子がくつろげるカフェーが出現、と新聞に。

4(日)●東京の歩兵第一連隊と第三連隊の兵三十数人が、初年兵の欠礼をきっかけに市内で乱闘。

5(月)●軽巡洋艦「夕張」進水。船体軽量化などに画期。

6(火)●不況と官庁の行政整理で失業者が急増、特に製造業では求人が皆無に近い、と新聞に。

7(水)●広島県の厳島が史跡・名勝に指定される。

8(木)●東京で初の「国際婦人デー」集会を開催。

9(金)●陸軍省監視船「金鵄丸」、サイパン方面の漁業調査を終え帰港。かつおの好漁場など発見。

10(土)●中国代理公使、第一次大戦中に日本に強引に認めさせられた「二一ヵ条要求」の廃棄を通告。

11(日)●「桜正宗」の山邑酒造が小売値を値下げして公表。小売店は慣行無視と抗議、と新聞に。

12(月)●八王子・三多摩地域の代表、同地域を神奈川県に移す「東京都制案」に反対の陳情。

13(火)●農商省、工船蟹漁業取締規則を公布。許可制に。

14(水)●政府、中国が通告した「二一ヵ条要求」廃棄を拒否。以後、中国で排日運動が激化。

15(木)●大丸呉服店、丸ビルに東京出張所開店。

16(金)●千葉県の野田醤油で、ノルマ増大めぐりスト。

17(土)●名古屋陸軍幼年学校を廃止。軍縮の一環。

18(日)●東京株式取引所が全焼。

19(月)●奈良県川西村で、住民の差別行動をめぐり、水平社同人と国粋会会員各千数百人が衝突。

20(火)●衆議院、中野正剛らのソ連承認決議案を否決。

21(水)●陸軍砲兵工廠が工員四〇〇〇人を解雇。

22(木)●岡山県和気町の和気銀行、支払い停止。

23(金)●予算案成立。歳出一三億四六〇〇万円で、前年比八・二%減。うち軍事費が約三六%。

24(土)●台湾で幼稚園制度が発足。

25(日)●東京・帝国ホテルで、全国職業婦人大会開催。

26(月)●衆議院、被差別部落に関し、因襲打破を決議。

27(火)●東洋拓殖、ニューヨークで一九九〇万ドルの米貨社債発行。使途は朝鮮開発、政府が保証。

28(水)●市町村義務教育費の国庫負担を一〇〇〇万円から四倍増。おもに教員の給与に充当。

29(木)●警視庁、短刀・匕口などの携帯を禁止。

30(金)●工場法改正。年少者・婦人の深夜就業禁止、雇用者の責任強化などめざす(大正15年施行)。

31(土)●千葉・金沢・長崎各医学専門学校を医大に昇格。

「国際写真情報」/国際フォト

▼共産党、「赤旗」創刊(4月3日)既刊の「前衛」「社会主義研究」「無産階級」の3誌を統合した非合法下の理論機関誌。市川正一、堺利彦、佐野学、山川均らが執筆した。しかし、6月の第1次共産党事件で編集部員全員検挙のため、3号で廃刊した。

旗赤

資本主義社會の搾取關係
朝鮮解放問題と無産階級
勞働黨・民主黨・社會黨

號月四

日本共産党提供

「国際写真情報」/国際フォト

▲北白川宮、フランスで自動車事故死(4月1日)パリ西北ペリエール付近を時速120キロでみずから運転中、前方の通行人を避けようとして樹木に激突。同乗していた運転手は即死、房子妃、朝香宮らが重傷を負った。北白川宮は37歳。前々年から欧州留学中だった。

▼ヤンキー・スタジアム完成(4月18日)ニューヨークに大リーグの人気チーム、ヤンキースのフランチャイズ球場(7万4000人収容)が完成。第1戦の対レッドソックス戦にベーブ・ルースが特大本塁打を打ち4対1で勝った。第1期黄金時代の幕開けである。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲フランス美術展開幕(4月3日)29日まで東京・上野で開催。マチス、ロダンなどの作品が並び、前日の招待日には約17万円分が売れた。写真のシルクハットを持つのが、詩人・劇作家でも著名なクローデル仏大使。

▶「われらのテナー」藤原義江帰国(4月10日)日本でのリサイタル開催と、行方不明の母を探すための里帰り。藤原(24)はイギリス人を父に持つ。1921年ロンドンでデビューして世界的評価を得ていた。

朝日新聞社

大正12年4月

1(日)●大阪毎日新聞社、雑誌「エコノミスト」創刊。

2(月)●神奈川県川崎町議会、粉塵問題で浅野セメントの即時操業停止意見書を、県知事に提出。

3(火)●北京学生連合会、日貨排斥を決議。

4(水)●東京で「博徒」約40人が縄張り争いで乱闘。

5(木)●国鉄は東海道本線電化などをにらみ、六年間で電気機関車三四〇両を導入予定、と新聞に。

6(金)●大阪の日本積善銀行が破産。

7(土)●前年度の大阪市内の建築状況、棟数は微増で延べ坪数は三倍、ビル化傾向を反映と新聞に。

8(日)●宮内省購入のドイツ製自動車が神戸着。時速一六〇キロの高性能で、運転教官が同時来日。

9(月)●東・西本願寺で、親鸞開教七〇〇年記念大法要。

10(火)●テノール歌手・藤原義江が四年ぶりに帰国。

11(水)●京都市会、市内五カ所の託児所建設を可決。

12(木)●摂政宮裕仁親王(昭和天皇)、台湾視察のため戦艦「金剛」で横須賀を出発(5月1日帰国)。

13(金)●朝鮮南部の浦項一帯で突風による高波。船舶多数が沈没、約四〇〇人が行方不明。

14(土)●中国における日本の権益を米が認めた「石井・ランシング協定」破棄の公文が交換される。

15(日)●長野県神川村(現・上田市)に日本農民美術研究所設立。手工業品の質の向上をめざす。

16(月)●美濃部達吉『憲法撮要』刊行(昭和10年発禁)。

17(火)●警視庁、河川に繋留中の船内での組織的な賭博を一斉手入れ、七五人を検挙。

18(水)●ニューヨークのヤンキー・スタジアムが完成。

19(木)●エジプトで憲法公布。英勢力下の立憲君主制。

20(金)●バイオリニストのF・クライスラー、来日。

21(土)●原久洋服店の新聞広告。背広三五円、大学制服二五円、レインコート一七円。

22(日)●東京の洲崎埋め立て地で初の自動車大競走会。

23(月)●山脇高等女学校の制服(洋服)は、冬服で一式約二一円、和服の四分の一、と新聞に。

24(火)●武藤山治らの政治団体「実業同志会」が発足。

25(水)●日本農民組合山陰連合会、設立。以後、各地で小作人組合設立が続き、小作争議が増加。

26(木)●各地で大火相次ぐ。宮城県鶯沢村で約六七〇戸、岩手県軽米村で約五五〇戸など焼失。

27(金)●前年末以来すでに銀行十数行が休業と新聞に。

28(土)●国産米高騰のため、三井・住友などの商社がカリフォルニア州米の買い付け開始と新聞に。

29(日)●源氏山(後の西ノ山)、第三〇代横綱免許。

30(月)●記者を中心に、女性だけの中国視察団が出発。

証言・あの日この日

吉野作造(45)

5月15日(火)〈午後大河内信威君来る　正敏君の長男、浦和高校学生、共産主義にかぶれ其筋の着目する所となり父君大にこまる　頼まれて遇つて見る　中々しつかりした所あり　之も時代の子かと思ふ〉(『吉野作造選集14』)

有島武郎の情死、関東大震災、そして虎の門事件。〈実に不祥の事の多い年であった〉(『岡本綺堂日記』)この年は人々に時代の大きな変わり目を予感させた。特に敏感なのは若者たちだ。赤化するものも多かった。民本主義のリーダー吉野作造は、そういう若者たちの理解者だと思われていた。〈駒込警察より両三日来警告あり青木なる人僕に暴行を加へんとすと、西野君にきけば僕アメリカより金を貰ひ大学の講堂に腰をすへて青年の赤化に力むるが不都合也と云ふなりとか　世間には此類の国家主義者多し〉(6月10日)。(坪内祐三)

朝日新聞社

▲大阪の荒れるメーデー(5月1日)総同盟系の約4000人と、警官隊と衝突した反総同盟系約1000人の労働者が、別々に中之島公園から天王寺公園に向けてデモ。写真は大阪・谷町付近を駆けるデモ隊。

尚古集成館提供

◀良子女王(20)の結婚を控え、久邇宮家が里帰り(5月)鹿児島の島津家に逗留。良子女王(前列左から3人目)は摂政宮(後の昭和天皇)と11月ご成婚の予定だったが、大震災のため延期になった。

「国際画報」

▶第6回極東選手権競技大会、大阪で開催(5月21日)陸上・野球など6種目にフィリピン・中国・日本が参加、日本が総合優勝した。写真は100ヤードの決勝。

◀青函連絡船に日本最初の汽車渡船「翔鳳丸」進水(5月29日)船内にレールを敷き、船尾の開口部から貨車を積む新方式だった。大正14年から就航した。

朝日新聞社

毎日新聞社

◀ヒトラー、出動態勢(5月1日)ミュンヘンのメーデーを襲撃するため、千数百人の武装部隊SA(突撃隊)を前に集会を開催。襲撃計画を察知した軍隊と州警察が機先を制して、武装解除した。

大正12年5月

1(火)●第四回メーデー。京都・名古屋・広島などで初めての集会・デモ行進。

2(水)●大阪市で初の総合競技場「市立運動場」開場。

3(木)●アメリカで初の無着陸大陸横断飛行に成功。

4(金)●臨時国語調査会、常用漢字一九六三字を発表。

5(土)●中国山東省で列車襲撃事件、英・米・仏など外国人一二人が捕らえられる(6月12日解放)。

6(日)●国鉄は今年度中に、蒸気機関車一九八両など合計二三八一両を製作の予定、と新聞に。

7(月)●在日中国人留学生の支援などを行う「対支文化事務局」を外務省に設置。

8(火)●小作制度調査会、発足。

9(水)●北一輝、『日本改造法案大綱』刊行。

10(木)●早大で、参謀本部との関係を持つ「早大軍事研究団」結成。反軍的学生と衝突(15日解散)。

11(金)●名古屋婦人会など、家庭電化講演会を開催。

12(土)●対南米貿易が退潮、独製品に敗れると新聞に。

13(日)●女性の労働環境改善を目的に、婦人協会発足。

14(月)●少年保護協会、設立。

15(火)●白木屋神戸出張所、百貨店初の土足入店実施。

16(水)●東京―大阪間に送電幹線を設備し、信濃川・天竜川などの電力連携計画が進行中と新聞に。

17(木)●洋紙の生産態勢が充実、パルプの自給率も向上し、輸入量が急減傾向、と新聞に。

18(金)●海軍霞ヶ浦飛行隊の二機、初の夜間飛行。

19(土)●フランス・ベルギー占領下のルール地方で、鉱山・金属労働者四〇万人がゼネストに入る。

20(日)●三菱倉庫、神戸に日本初の近代的倉庫を建設。

21(月)●第六回極東選手権競技大会、新設の大阪市立運動場で開催(~26日)。

22(火)●内務省に「労働統計実施調査会」発足。本格的な労働統計調査が始まる。

23(水)●東京のお茶の水博物館、家庭電化デーを開催。

24(木)●三菱造船、一万二〇〇〇トンの客船を見こみで建造し、売却先がみつからない、と新聞に。

25(金)●東京湾に漁船を襲う海賊船が出没、と新聞に。

26(土)●東京・丸の内で日本郵船ビルが竣工。

27(日)●第一回ル・マン二四時間自動車レース開催。

28(月)●東京の「汽車製造会社」深川工場で組合員解雇をめぐりストライキ(以後、他工場に拡大)。

29(火)●横浜で大がかりな阿片密輸団摘発。日・米の金貨五万円などを押収。

30(水)●陸軍に初の高射砲部隊が新設される。

31(木)●東京でチフス流行、浅草などで小学校が休校。

6月

◀第1次共産党事件（6月5日）早大講師・佐野学、猪俣津南雄の両研究室が早朝、警察の捜索を受け、同時に共産党関係者八十人余が一斉検挙された。堺利彦、野坂参三、徳田球一、山川均ら幹部を失った。写真は東京地裁での幹部たち。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲日本郵船旧館焼く（6月9日）3階から出火、同階を全焼。東京・丸の内の昼休み時だったため、現場は野次馬でいっぱいになった。幸い東京駅前に新館が完成、移転中だったため被害は少なかった。

▼宝塚少女歌劇団、帝国劇場で公演（6月27日）前年に誕生した月組の天津乙女、住江岸子らが、「海彦山彦」のお伽歌劇を熱演した。写真は東京駅に到着した一行。

「国際写真情報」／国際フォト

朝日新聞社

▲浅草・花屋敷で虎の子5匹誕生（6月29日）花屋敷は劇場・演芸館・動物園などを集めた歓楽地で、日本初の誕生と人気になり、震災でも虎は無事だった。

▼東京で市電の交通調査実施（6月7日）市電気局が5月に続いて2度目。混雑緩和と敏速な運転をするためのデータを得るのが目的で、今回はさらに1000人の係官を増員、正確を期した。

▶高級市営住宅完成（6月3日）東京市は本郷と小石川に木造2階建て住宅を完成、7月から順次貸し付けを開始。8・6・2畳、浴室・台所・家具つきで家賃は65円。

「国際写真情報」／国際フォト　朝日新聞社

大正12年6月

1（金）●中国、長沙で汽船「武陵丸」の入港に反対する排日学生と、日本の海軍陸戦隊が衝突。

2（土）●東京・築地精養軒で日ソ交歓会開催（三宅雪嶺、ヨッフェ夫妻ら参加）。●三越、高島屋が売り上げ増のため公休日廃止。

3（日）●「アサヒグラフ」主催の写真競技会開催。

4（月）●米政府、領海内への酒持ちこみを禁じた船舶取締令を公布（10日施行）。

5（火）●堺利彦、山川均ら共産党員、一斉検挙される（第一次共産党事件）。

6（水）●長沙の衝突事件悪化し、在留邦人引揚げ決定。

7（木）●東京鉄道局、省線電車で乗降客調査。総数五十八万人余、東京駅三万人余で一位。

8（金）●後藤新平、交渉開始についてヨッフェと会見。

9（土）●有島武郎、波多野秋子と軽井沢で心中自殺。●ブルガリアで右派・国王派のクーデター。

10（日）●政界への現状打破同盟大会一五〇〇人参加。

11（月）●急設電話開通規則改正による六大都市七五二〇台の申し込み受付開始（申し込み一六万強）。

12（火）●九九〇〇型蒸気機関車（後のD50型）完成。

13（水）●鈴木三重吉、西条八十、千葉市で小学校教員のために童話・童謡の研究発表。

14（木）●女子体育協会、設立。

15（金）●全国商業会議所、予算減額・税制整理を建議。

16（土）●京浜国道改造、土地買収が難航、と新聞に。

17（日）●ソ連政府から日ソ交渉承諾の正式回答。

18（月）●イタリアのシチリア島エトナ火山、大噴火。

19（火）●義務教育費国庫負担分の配分を定める。

20（水）●大蔵省、満州（中国東北部）財界の金融救済のため二八〇〇万円の融資を決定。

21（木）●大阪市、大阪電灯会社と買収の仮契約に調印。

22（金）●万国婦人平和連盟会長ジェーン・アダムス、大阪中央公会堂で平和を訴える講演。

23（土）●文化裁縫学院、初の服装教育校として各種学校令により認可。文化服装女学校と改称。

24（日）●内務省、千住機械工場の職工半数に解職通達。

25（月）●張作霖の機関紙が「満鉄を中国に返せ」と論評。

26（火）●社会主義者の高尾平兵衛、赤化防止団団長・米村嘉一郎弁護士に射殺される。

27（水）●東京電灯、英貨社債三〇〇万ポンド発行。

28（木）●世界教育大会に矯風会の佐藤隆子が出席。

29（金）●政府代表・川上俊彦、ヨッフェと日ソ国交回復の非公式な予備交渉開始（樺太利権など）。

30（土）●熊本・日奈久町で隧道崩壊事故。死者一二人。

20世紀博物館

グリコピア神戸

「おまけ」のグリコが作った「おまけ」だらけの面白ゾーン

兵庫・神戸市

桑原茂夫

▲昭和30～40年代のグリコの「おまけ」。プラスチック時代に入っていちだんと華やかさを増した。

「おまけ」つきで知られるグリコが、初めて世に出たのは大正一一年。大阪・三越百貨店でのことだった。当時はまだ「おまけ」はついていなかったが、ハート形のキャラメルは珍しく、徐々にその存在を知られていった。そして翌年の大正一二年には東京に出張所を設け、全国展開をはかろうとしていた。

その後、一時東京から撤退するものの、昭和六年には「発声映写装置つき自動販売機」を東京の街角に置いて、東京人の度肝を抜いた。子どもたちの好奇心がいたく刺激されたのは言うまでもない。こうして〝グリコは変わったことをやる〟〝グリコは面白い〟といったイメージを膨らませていったのである。

この歴史的な自動販売機の実際を、グリコの博物館「グリコピア神戸」で見ることができる。グリコの製造・発売元の江崎グリコが昭和六三年にオープンした博物館で、自動販売機は、当時の資料をもとに再現したもの。

博物館のガイドをするコンパニオンが、十銭硬貨を入れると、小さなスクリーン（まるでテレビのようだ！）に映画が映し出され、サイレントだからそのBGMとして音楽も流れる。やがて画面が消え、音楽がやむと、下の取り出し口にグリコがぽとりと出てきて、さらに思いがけず一銭硬貨が二枚、勢いよく飛び出してくる。これも「おまけ」で、まさに「おまけ」のグリコならではの装置なのだ。

そういえば、この博物館自体にも、工場見学が「おまけ」についている。いや、ここは工場の敷地内だし、工場見学の申し込みに応じられるようにという意図もあって建てられたのだから、実は博物館の方が「おまけ」なのかもしれない。

館長の仁久丸惇二氏に、博物館開設の理由を尋ねた時、すぐ返ってきた答えも「おまけのグリコですから」というもので、「とにかくプラスアルファを作る会社なのですよ」とつけ加えた。

さて博物館の中には、自動販売機のほか、グリコの「おまけ」やパッケージの歴史をたどるコーナー、グリコ特有の新聞広告、記事中の小さなスペースに短文を載せて読者を楽しませた「豆文広告」のコレクションもある。まあ、これが本体とすると、ちゃんと「おまけ」もある。それも半端ではない。「マジックシアター」と称する、仕掛け映像によるミュージカルや、大昔の竪穴住居模型の中に座る主人が突然表情も生き生きと話し出すからくりなど、まことに凝っている。まさに「おまけのグリコ」の面目躍如といった博物館で、どれが本体かどれが「おまけ」か、最後にはわからなくなってしまうのであった。

▼工場の敷地内にあって、工場見学もコースに組みこまれている。

▼グリコの自動販売機。昭和初期のものを復元した。映される映画（活動写真）は市川右太衛門の「旗本退屈男」。

◀実物のキッチンを背景に、半透明の映像がミュージカルを演じる「マジックシアター」。

石井美雄

●グリコピア神戸
兵庫県神戸市西区高塚台七―一
☎〇七八―九九一―三六九三
神戸市営地下鉄西神中央駅からバス、高塚台一丁目下車、徒歩一分
案内時間＝一〇時～一五時（ガイドつき）
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）
入場無料　ただし予約が必要

ベストセラー
講談社が震災情報を緊急出版！月刊「文藝春秋」もこの年スタート

この年一月、雑誌「文藝春秋」が創刊された。大きく揺れ動く時代を背景に、作家・菊池寛が私財を投じて創刊したもの。彼は創刊の辞を次のように書いた。

「私は頼まれて物を云ふことに飽いた。自分で、考へてゐることを、読者や編輯者に気兼なしに、自由な心持で云つて見たい。（中略）一には、自分のため、一には他のため、この小雑誌を出すことにした」

誌名は、菊池寛が「新潮」に連載していた文芸時評のタイトルを使ったもの。

創刊号執筆陣には、「侏儒の言葉」を連載することになる芥川龍之介をはじめ、今東光、川端康成、横光利一などそうそうたるメンバーが名をつらねている。定価一〇銭、三〇〇〇〇部でスタートしたが、売れ行き好調で、その後も順調に部数を伸ばし、今なお健在であることは周知のとおりである。

大正六年に詩集『月に吠える』でデビューした萩原朔太郎は、この年第二詩集『青猫』を刊行し、旧来の詩人にない独自の境地を示して注目された。その序の中で朔太郎は、自分が歌うのは「あの艶めかしい一つの情緒――春の夜に聴く横笛の音――である。それは感覚でない、激情でない、興奮でない、ただ静かに霊魂の影をながれる雲の郷愁である。遠い遠い実在への涙ぐましいあこがれである」と記している。もともと音楽家を志していた朔太郎の、詩に対する考えがはっきり打ち出された詩集でもあった。

また、大震災による大混乱の中、的確な情報を伝えようと緊急出版されたのが、大日本雄弁会講談社の『大正大震災大火災』である。表紙は横山大観が描いた真っ赤な絵で、菊判三〇〇ページのうち、写真八〇ページ、地図五点と、グラフィックな要素を重視した編集だった。本文は「大震災記」「地方の惨状」「鬼神も面を掩う悲話惨話」など二十余の章に分けられていた。初刷三〇万部。大震災からわずか一ヵ月後の一〇月一日に発売され、一八日には売り切れ、一〇万部を増刷するという大ベストセラーとなった。

▶「文藝春秋」創刊号。一〇銭。

▶「大正大震災大火災」。一円五〇銭。

日本近代文学館提供

▶「青猫」（新潮社）。二円。

スターと名場面
栗島すみ子、「船頭小唄」でスターに 映画での“女形時代”が終わる

この年、松竹の映画女優・栗島すみ子が、女性としては日本で初めて、ブームとなるほど、その人気を決定的なものにした。これは同時に、映画のヒロインは女形が演じるものと決めこんでいた時代の終わりを告げてもいた。

栗島すみ子は、大正一〇年に「虞美人草」でデビューし、翌年の「不如帰」で悲劇のヒロイン・浪子を演じて喝采をあび、この年の正月映画「船頭小唄」でスターとしての地歩を固めたのである。当時発行されていた映画ファン向けの雑誌「蒲田」などには、栗島すみ子を絶賛する投書が相次ぎ、ブロマイドの売れ行きもナンバーワンという人気女優となった。

なお「船頭小唄」のヒットは、同じように水郷を背景にした映画「水藻の花」を生むなど、大きな影響力を持った。

さらにこの年、後に大スターとなる阪東妻三郎がスクリーンに顔を見せた。沼田紅緑監督の「小雀峠」（マキノ等持院作品）で、市川幡谷や高木新平ら、当時人気のあった主演クラスのスターの脇を張りながら、早くも彼らを圧倒しそうな強い存在感を示した。

まだ映画の揺籃期。弁士が活躍する無声映画であり、撮影技術も稚拙だったが、いい映画を撮ろうとする意欲と熱気が撮影所にあふれている時代だった。

▲「松平外記」であいかわらずの活躍をした、当時の人気俳優・尾上松之助（中央）。

▶「船頭小唄」でスターの地位を不動のものにした女優・栗島すみ子。

▼「小雀峠」で、強い存在感を示した新人の阪東妻三郎。

マツダ映画社提供（三点とも）

モノ語り'23
伝統商品を全国展開した「養命酒」「ヘチマコロン」、一方でハイカラな国産カレー粉誕生！

▶**化粧水の代名詞となったヘチマコロン**　小間物の卸商だった天野源七商店（現・ヘチマコロン）が、大正4年に発売した化粧水「ヘチマコロン」が、竹久夢二を起用した広告などで評判を呼び、この年までにはその人気を決定的にした。スキンケア用品として、昔から一般家庭で作っていたのを商品化したもの。日本に入ってきたばかりのオーデコロンの響きを生かした名称で、大50銭、小30銭で販売された。

▼**電池で長持ちするランプ**　自転車の夜間照明器具がほとんどない時代を背景に、松下電気器具製作所（現・松下電器産業）は、この年、松下幸之助開発の「砲弾型電池式ランプ」を発売した。従来のランプが、電池寿命2〜3時間、故障も多く実用的でなかったのに対して、電池寿命が40〜50時間という画期的なもので、多くの自転車店で試験点灯して売り、ヒットさせた。

▲**日本ならではのガス器具の登場**　明治・大正時代のガス器具はほとんどが外国もの。したがって、日本人の主食であるお米を炊くガス器具はなかった。そこで東京瓦斯会社（現・東京ガス）が独自に考え出したのが、この「ガスかまど」だ。すでに明治時代に発明されたが、この頃になるとかなりの勢いで普及し始めた。1升炊きから6升炊きまでいろいろで、かまどとこんろを切り離して使えるタイプのものもあった。昭和40年代まで使われていたヒット商品である。

▲**競馬は洒落たゲーム**　明治時代になってすぐ現在のような洋式競馬が始まったが、当時はギャンブルとしての要素はそれほど多くはなかった。しかしこの年に「競馬法」が制定されて、馬券の発売が公認され「勝馬投票券」という名称が用いられるようになった。そんな状況を背景に、洒落た「競馬すごろく」が同じ年に発売された。馬は金属製で、サイコロを振ってレースを楽しむものだった。　日本玩具資料館蔵

養命酒の“飛龍”マーク

慶長年間のある大雪の晩に行き倒れになっていた老人を、塩沢家の祖先が救ったところから養命酒ストーリーは始まる。

ここで救われた老人が実は薬酒の秘法を心得ていて、伊那谷の薬草を採取して作り上げたのが「養命酒」なのだという。

徳川家康にも献上し、幕府から〝天下御免万病養命酒〟の免許を受け、その象徴として〝飛龍〟の使用を許されたと言われている。

この〝飛龍〟が今でも養命酒の商標として用いられているもので、日本における最も古い商標のひとつと目されている。また、〝飛龍〟の〝龍〟が、この年に会社組織になった時の社名にも用いられたほど、〝飛龍〟は養命酒と一体となった名称なのであった。

▲**一子相伝の秘法を全国に広げる**　慶長7年（1602）に信州伊那谷で作り出され、その地で300年以上も飲まれ続けた薬酒「養命酒」を全国に広げようと、この年、伊那谷の塩沢家の家業だった薬酒作りを会社組織に改め、株式会社天龍舘（現・養命酒製造）が誕生した。以降、養命酒の名は全国に広まり、今でも伊那谷で製造を続ける超ロングセラー商品。写真は昭和初期のもの。

◀**ついに国産カレー粉ができた**　国産のカレー粉がない時代に、敢然とカレー粉作りに挑戦した男がいる。山崎峯次郎で、いろいろなスパイスを石臼で粉にするところから始め、これを茶櫃（ちゃびつ）に入れて熟成させ完成した。この年、浅草で「日賀志屋」という店を開き、洋食屋などの業務用に売り出した。木箱入りで1円10銭。徐々に評判となり、やがて写真のような家庭用も売り出して大成功、現在のヱスビー食品の基礎を築いたのである。

人物クローズアップ

大杉 栄（三八） 伊藤野枝（二八）

六歳の甥まで巻きこんだ「虐殺事件」背後には軍上層部の命令があった！

▲大杉の妹あやめの子、橘宗一。大杉、野枝とともに拉致され、殺された。

関東大震災から二週間余りたったこの年九月一六日、アナーキストで社会運動家の大杉栄（三八）が、同棲中の伊藤野枝（二八）、甥の橘宗一（六）とともに横浜・鶴見の弟宅から帰る途中、東京憲兵隊本部に検束され、虐殺された。

九月一日に関東一円を襲った大地震は、東京、横浜を中心に、すさまじい社会不安を巻き起こした。まず、「朝鮮人が暴動を起こした」とのデマによって、六〇〇〇人を超える朝鮮人が虐殺され、三日には、習志野騎兵第一三連隊が労働運動家九人を殺害した「亀戸事件」が発生。大杉たちの虐殺はそれに続くものだった。

大杉栄は、明治一八年一月一七日、現在の香川県丸亀市生まれ。三六年、東京外国語学校仏文科に入学。その頃から、幸徳秋水・堺枯川（利彦）の「平民社」に出入りする。幸徳とかかわり、大杉はアナーキズムの思想に傾斜していった。四三年五月、幸徳らが「大逆事件」で検挙され、処刑（四四年一月）されると、大杉はアナーキズム運動の中心的存在になっていく。

伊藤野枝は、明治二八年一月二一日、福岡県志摩郡今宿村（現・福岡市）生まれ。大正二年、平塚らいてう主宰の青鞜社に入り、四年には雑誌「青鞜」の編集責任者となった。野枝が大杉と出会ったのはこの頃である。風采がよく、派手で何かと目につく大杉に、野枝は強く魅かれた。大杉は多角恋愛と称して、妻・保子のほかに新聞記者の神近市子、それに野枝との四角関係を結んだりする。こうした中、大正五年一一月、神奈川県葉山の日蔭茶屋で傷害事件が起きた。神近市子が、愛憎のもつれから刃傷におよんだ、いわゆる「葉山事件」である。この事件をきっかけに、大杉は保子と離婚、野枝と円満な家庭生活を送るようになった。

検束された大杉たちは、麹町憲兵分隊に運ばれた。午後八時頃、取り調べ中の大杉を、そこに入ってきた憲兵大尉・甘粕正彦（三二）が、いきなり後ろから右腕を大杉の咽喉にあてて締め、大杉が後ろに倒れると、膝頭を大杉の背中にあててさらに締め上げ、絞殺した。続いて野枝も絞殺。宗一は部下の憲兵が殺害し、遺体は憲兵分隊内の古井戸に投げこまれた。

評論家の大沢正道氏は、なぜ大杉は虐殺されたかについて「この年、大杉は密航してフランスに渡り、メーデーにパリで演説をします。その後強制送還されますが、船が神戸に着いた時、彼は凱旋将軍のようだった。そういう大杉を、軍は、社会不安をあおる左翼のシンボルとして抹殺したわけです」と語る。

虐殺は、長らく甘粕の単独犯行とされていた。軍法会議で、宗一を殺したとして法務官の尋問を受けた上等兵が、虐殺は司令官の命令と証言した後、法務官が更迭され、審議は甘粕の単独犯行で一気に結審したのである。しかし、昭和五一年、当時検死にあたった軍医の鑑定書が発見され、遺体の損傷状態から単独犯行ではあり得ないことがわかり、軍の意志として行われたことが明確になった。大杉たちの虐殺は、その後に始まる大弾圧の、不気味な前ぶれだったのである

▲10月8日、軍法会議法廷で起立する憲兵大尉・甘粕正彦。

▶大杉栄、伊藤野枝は、七月にパリから強制送還され、新宿に近い柏木に住んでいた。膝の上に抱いているのは、娘・魔子。

近藤千浪提供（三点とも）

決定的瞬間

夜を徹して三〇台が完走！初の二四時間耐久レース"ル・マン"の勝利の条件

◀第1回ル・マン24時間耐久レースの参加車。左上段には、エントリー・ナンバーと周回数を表示するボードが作られている。
ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

一九二三年五月二六日から二七日にかけて、パリの南西約一九〇キロにあるル・マン市で、第一回二四時間自動車耐久レースが開催された。

二六日午後四時、あいにくの雨の中、三三台が一斉にスタート。出走車は轟音(ごうおん)を響かせライトを照らしながら、夜を徹して走り続けた。

高速サーキットは一周が一七・二六一キロ、行く手には直線とコーナーが次々に押し寄せる。特に六キロもあるユノディエールの直線は、深い森に囲まれた難所であった。「悪魔が住む森」とも言われるこの直線コースを、夜間、ライトだけを頼りに猛スピードで駆け抜けることはまさに命がけである。

後（一九七三年）に、日本チームとして初めて出場をはたしたシグマオートモーティブ総帥の加藤真氏は、「この直線を走るマシンは、まるで悲鳴をあげているようで、コースは日本人ドライバーに事前に見せない方がいいという印象を持った」と語っている。

第一回のレースに参加したのは、フランスの一六のメーカーから三一台、ベルギーとイギリスから各一台。三〇台が完走し、マシンのトラブルで途中棄権したのはわずか三台であった。

優勝したのは、ラガシェとレオナールが乗った排気量二九七八ccのフランス車シェナール&ウォルカーで、走行距離二二〇九・四七キロ（コース一二八周）、平均速度九二・〇六四キロ。

レースは二人のドライバーが四時間ごとに交代する形で進められたが、好成績を残す条件は、車の性能や耐久性、ドライブテクニックだけではなかった。

一般の市販車を整備して出場する当時のレースでは、燃料や水、オイルの補給や車の点検・修理など、ピットでの作業も二人のドライバーに限られていただけに、車のメカニズムに強いことが、ドライバーに求められた。

微妙な振動やエンジンの音にも細心の注意が必要だ。ピットインのタイミングを間違えればトラブルを招きかねない。その後、燃料補給など、レースでの作業分担が進むにつれ、チームワークが勝負の重要な鍵を握るようになったのである。

ル・マン二四時間耐久レースを企画したのはACO（西部自動車クラブ）である。エンジニア、ジャーナリスト、役人や工場主など有力メンバーで構成されたこのクラブは、すでに一九〇六年には、国名を冠したグランプリレースを開催していた。しかし一九二〇年代に入ると、車が市販車を離れレース専用車となることで、レースへの関心が一部の人々に限られることへの反省もあり、競技は市販車で行われることになった。市販車でレースを行えば、勝つことは車の性能を証明することにもなり、自動車メーカーの興味を引くに違いないという読みもあった。事実、F1レースが、ドライバーの世界一を決めるレースであるのに対し、ル・マン二四時間耐久レースは、製造者であるマシンメーカーの名誉がかかったレースでもある。

第一日目の当夜、サーキット周辺はまるで"不夜城"であった。主催者ACOは、観客がレースに飽(あ)きることを配慮して、周囲にバーなどを設営していたが、誰一人として、席を離れるものはいなかったという。

美の出会い

涙ながらに写生した焦土！
池田遥邨「災禍の跡」への画壇からの評価と自己の信念

▶「災禍の跡」。ふだんは展示されていないので、鑑賞を希望する人は展示日の確認が必要。倉敷市立美術館蔵（三点とも）

▲明治28年、岡山県生まれ。昭和3年と5年に帝展特選。34年芸術院賞受賞。

大正一二年九月一日、関東地方を大地震が襲った。それからひと月もたたないある日、京都に住んでいた日本画家・池田遥邨（二七）は、洋画家の鹿子木孟郎（四八）から、大震災の跡を写生に行かないかと誘われた。京都市立絵画専門学校（現・京都市立芸術大学）の学生時代に、ムンクやゴヤの影響を受けていた遥邨は、二つ返事でこの話にのった。

東京に向かう汽車は満員だった。神奈川県の馬入川では鉄橋が落ちていたため、遥邨らは徒歩で渡り、その後も汽車を乗りついで、ようやく東京に着いた。東京は焦土と化し、街にはまだ焼けた死体の臭いが漂っている。罹災者たちは途方にくれながらも、焼け跡の後かたづけにとりかかっていた。こうした光景に接した遥邨は、あふれる涙をおさえながら、素早く鉛筆を走らせていった。

「人が苦しんでいるこんな時に写生するとは何事だ」と罵声をあびせられることもたびたび。時には石を投げつけられ、追われることもあった。遥邨は京橋明石町を皮切りに芝虎ノ門、神田神保町、御茶ノ水、四谷新宿町、上野、浅草と東京の被災地を、およそ一ヵ月間写生しながら歩きまわった。スケッチの数は画用紙五〇〇枚におよんだ。

翌一三年七月初め、遥邨は京都・寺町通の廬山寺の本堂を借り、「災禍の跡」の制作にとりかかる。画布の上に乗り板を架けて、その上に乗って描き続けた。大震災の一周年にあたる九月一日の正午近く、寺の鐘や工場のサイレンなどが一斉に鳴り渡り、市民は震災の死者を悼み黙禱した。ちょうど乗り板の上で制作中だった遥邨は、流れ出る涙を止めることができなかった。

約三ヵ月ほどかかって完成した遥邨の渾身の作品「災禍の跡」は、東京・上野で開催される第五回帝展会場に搬入された。この絵を見た審査員たちは「ワァー」と声をあげたが、結果は落選だった。師の日本画家・竹内栖鳳は遥邨を呼び出し注意を与えた。

「近頃、君の考え方は間違っているのではないか、悲惨なものを描いてそれがいかにも深刻な芸術だと考えているとしたら考え違いである。椿一輪描いても立派な芸術は生まれるのだ」

この頃の日本画壇は花鳥画が圧倒的な主流を占め、枯れた草花でさえ絵の対象とみなされなかった時代である。

失望した遥邨は、弟にあてて長い手紙を書いている。焦土を歩いて描いた写生は、涙の結晶であること。罹災者に対する哀しみと芸術上の強い衝動を受けて制作を開始したことなどにおよび、落選したことについては、自分の芸術には関係ないことだと記している。

大正一四年の五月一日から五日まで、郷土の岡山市の天満屋で遥邨の個展が開かれ、「災禍の跡」も出品された。この時、警備員から「夜だけは、この絵をしまってほしい」と頼まれた。夜の巡回でライトをあてると、恐ろしくてたまらないというのだ。

「災禍の跡」を所蔵する倉敷市立美術館の学芸員・前田興氏は、「今の人たちはいろいろな刺激に慣れきっているので、それほど感じないかもしれません。昔の人の方が素直な感性を持っていて、この絵からもきっと強い印象を受けたのでしょう」と語る。平成七年の阪神大震災から二週間後の一月二九日、前田氏は「山陽新聞」に「災禍の跡　池田遥邨」と題する一文を寄せた。そこであらためて作品の意味を問い、「貴重な歴史の証言を二一世紀に伝えていかねばならない」と結ぶ。

「災禍の跡」以後、遥邨は飄逸な味わいのある風景画に没頭。昭和四年以降、歌川（安藤）広重にならって徒歩で東海道五十三次の写生旅行に出かけ、〝放浪の画家〟とも呼ばれた。昭和六二年には文化勲章を受章。晩年には、種田山頭火の句を題材にした多くの作品を残している。

▶スケッチ「関東大震災　京橋明石町」。

◀「関東大震災　全区全滅の神田神保町より九段を望む」。

「現場」を歩く

築地

「仮市場」をオープンして七四年目にささやかれる“移転論”

山本徹美

▲江戸っ子の食生活を支えた魚河岸が、今や世界の水産物市況を左右するほどに発展した。 奥村健太郎

江戸時代・延宝二年（一六七四）から魚河岸として栄え、明治、大正期も東京に四ヵ所ある鮮魚市場では最大規模だったのが日本橋魚河岸である。市場面積は約一万坪（約三万三〇〇〇平方メートル）。田口達三著『魚河岸盛衰記』によると大正一〇年度における問屋は八人、問屋兼仲買業者が六七五人、仲買専業七人。これを中心に毎日一万人近くの関係者でにぎわい、一日の平均取扱高は、約三八〇トン。

その日本橋魚河岸も大正一二年九月一日の関東大震災で壊滅的打撃を受けた。魚河岸は全焼、河岸関係の死者は約四〇〇人と伝えられる。日本橋から丸の内へ逃げのびた尾村幸三郎氏（八七）は、仲卸の老舗「尾寅」一三代目店主で、『日本橋魚河岸物語』の著書もある。

「今もちょっとした地震があると、顔色を変えて騒ぎ家族に笑われるのですが、あの恐怖は忘れることなどできない。でも、おかげで移転という難問がいっきょに解決した。禍転じて福、でした」

奇しくもこの年三月、中央卸売市場法が公布され東京市は明治二二年以来懸案となっていた市場移転問題と取り組むのであるが、一部業者の反対があって実現の糸口すらみいだせない状況だった。

▲関東大震災によって、魚河岸は一時芝浦の「臨時市場」に移転。各地方からの救護品が山と積まれている。

震災直後の九月六日、日本橋魚市場組合の安倍小治郎取締役ら移転推進派幹部は東京市役所の田島勝太郎助役を訪ね、市場再開を協議。候補地として芝浦の埋め立て私有地と、築地の海軍技術研究所用地があがった。安倍ら組合幹部五人は車で現場に行き、芝浦の地主・細川力造と交渉、二〇〇〇坪を借り受ける。

組合幹部はその足で海軍技術研究所へ。有坂所長に「仮市場として開設したい」と申し出て承諾される。

こうして芝浦「臨時市場」は九月一七日にオープン。一方、築地「仮市場」は一二月一日、開場式を挙行。芝浦で営業していた業者八百余人の大半はこちらへ移動する。その後、昭和六年本場開設が認可、昭和一〇年二月、東京中央卸売市場開設、現在にいたっている。

移転か再整備か

築地市場を歩いてみた。業者の威勢のいいやりとり、活発に行き交う人々の中にいると、運動会のような興奮をおぼえる。敷地は約六万九九五〇坪（二三万八三六平方メートル）。平成八年度における一日の平均取扱高は約二八四五トン、金額にして約二六億七〇〇〇万円。出入りする人員は一日平均五万八六四三人。そのうち業者は一万七二二〇人。とてつもないマンモス市場である。建物は開設六〇年を迎え老朽化が進んでいる。ここにきて移転論も出ており、尾村氏も論者の一人だ。

「臨海副都心に引っ越せばいい。魚河岸が日本橋で終わったように、市場は築地で終わり。生まれ変わるべきです」

東京都は現状再整備案を提示している。

映画スターや上流夫人が殺到！
丸ビルにオープンした“洋髪”のメッカ
山野千枝子「丸の内美容院」のノウハウ

▲ハイカラな「丸の内美容院」の店内。山野（写真左端）は米国で身につけた美容術と経営法を、この店で次々に“実験”していった。 石崎千鶴子提供

赤外線パックに全身エステ、脱毛術エトセトラ……これらが最近生まれた流行と思ったら大間違い。こうした美容法を、大正から昭和初期に早くも導入した女性がいた。彼女が米国から持ち帰った美容術によって、多くの女性が、それまでの和服を捨てて洋服へ着替え、日本髪を洋髪に変えていったのである。

朝来て、晩でないと帰れない大繁盛ぶり

大正一二年三月一〇日、東洋一のビルと言われた東京駅前の「丸ビル」四階に、純米国風の美容室「丸の内美容院」がお目見えした。開店したのは、ニューヨークの美容学校に通った後、ブロードウェイで美容室を経営していた山野千枝子（二七）。日本の美容師が着物に割烹着姿で「髪結いさん」と呼ばれていた時代に、一〇代後半から二〇代の美容師約二〇人（月給約一〇円）が白の洋服にヒール姿で登場。カーテンや大きめのミラー、仰向けに寝たまま洗髪できるシャンプー台などの設備はすべて洋風で、日本にない器具類は海外から集めたカタログを見て独自に製作するほどの凝りようだった。まさに、設備は純米国風、ノウハウはニューヨーク仕込みという美容室が、東京のど真ん中に登場したのである。

当時の日本女性のヘアスタイルといえば、まだ丸髷や桃割れ、銀杏返しといった日本髪がほとんどで、東京・銀座にできたカフェーやダンスホールで働く一部のモダンガールでさえ髪をたばねたり、結ぶ程度だった。それだけに、山野が紹

▲山野は、西洋風のヘアスタイルや化粧を普及させるため、精力的に全国を講演してまわった。モデル役をつとめる右の女性は、内弟子の一人、若き日の吉行あぐり。 石崎千鶴子提供

介したマーセルウェーブ（火ばしのような形のアイロンを熱して、髪をはさみウェーブを作る）は注目を集め、昭和一〇年頃にパーマネントウェーブ（電髪）にとって代わられるまで、洋髪ブームの中心であり続けた。

化粧に関する提案も斬新だった。今では考えられないが、粉白粉などを顔に塗っていた当時の女性たちは、洗顔の習慣がなく、中年になると皺だらけのドス黒い肌になってしまう。そこで、山野はバニシングクリームを開発し、就寝前の洗顔を提唱するのである。

「当時、朝来て、晩でないと帰れないほど混んだものですよ。シャンプーから結髪、美顔術からマニキュアと一コースすませば、七円くらいはかかったものです」（『明治百年』）。本人がそう語っていたように、〝純米国風美容院〟は大好評で、栗島すみ子や川田芳子といった映画スターや上流夫人が次々と来店するため、各階のオフィスからは「お茶汲みに廊下に出た給仕が戻ってこない」と苦情まで出るありさまだった。

「職業婦人」の増加が日本女性の容貌を磨く

山野が日本で美容院を開店した理由について、約一二年間秘書をつとめた魚路定子さん（現・六九歳）は、「アメリカ時代の体験がきっかけにある」と言う。

「先生がニューヨークで新婚生活を送っていた時、アメリカ人と日本人の美容に対する意識の違いに愕然としたんです。『貧弱な身体に着物という装飾をまとい、顔には厚い化粧をした日本女性は、浮世絵でこそ欧米人に賞賛されるものの、国際的な女性美のスタンダードにはほど遠い。まずは、身体と生活の両面から見直して、新しい美を創造しなければ……』と強烈に感じられたんですよ。そのため、先生は牛込区（現・新宿区）の自宅に内弟子四人をおいて技術を仕込み、美容師の育成にもつとめていました」

▲「丸ビル」内の銀座と言われた1階の十字路。2階から9階までは貸し事務所で、最上層の9階には銭湯と食堂も。 朝日新聞社

◀この年2月20日、東京駅前にオフィスビル「丸ビル」が完成。350の企業が入居し、1万人が通勤した。

当時の日本の女性美に対する〝後進国ぶり〟をものがたるエピソードを紹介しておこう。日本初の美人コンテストは明治四一年に開かれているが、初のミスに輝いた末弘ヒロ子という学習院女学部（当時の学院長は乃木希典）の女学生は、退学になってしまうのだ。

山野の美容院でも、「右翼の壮士たちからにらまれて、『カラスの濡れ羽色のような美しい日本特有の黒髪を、毛唐のマネしてちぢらせるとは国賊だ、即時、閉店せよ』と、店先にがんばられて、おどかされ」（自伝『光を求めて』）るのは日常茶飯事だった。はたまた、昭和二年には、欧米から来たショートヘア（断髪）が、「朝日新聞」から「毛断嬢は世の醇風美俗を乱す」と攻撃される始末。

つまり、〝大和撫子の黒髪〟は、男権社会に対する女性の従順のあかしで、それを西洋風にするのは社会秩序への挑戦状と見る風潮が、昭和初期にもまだ残っていたのである。こうした時代だからこそ、国産パーマ機の開発や赤外線美顔術、メークアップ化粧品と、美容界で次々と斬新なアイディアを生み続ける山野の歩みは、そのまま女性差別との闘いでもあった。

ところが、一方で、昭和初期の不景気が日本女性の容貌をさらに磨いていくことになる。賃金の安い女性たちが、バスガールや事務員、タイピストや劇場の案内嬢といった仕事につき始めて「職業婦人」が増加。洋服の機能性にきづいた彼女たちに、美容術が少しずつ浸透していったからだ。

その中で〝美貌〟で高給をとる新職業も出現し始めた。代表株がファッションモデルの前身と言われるマネキンガールだ。山野が「日本にも欧米式の生きた人間によるモデルを登場させ、躍動する女性美を広めよう」と発案したもので、共鳴した高島屋が昭和三年に酒井米子などの人気女優をマネキンとして登場させ、ソファに座らせたのが始まりだった。これが成功をおさめた翌四年、同じく山野の手によってモデルクラブのひな型とも言える、マネキンガール組織「東京マネキン倶楽部」が創設されている。

戦後になっても、美容スクールの設立や東京美容国民健康保険組合の発足、汎洋婦人友好会の設立による日韓、日台を結ぶ国際的な婦人友好活動の推進と、進取の気性に富んだ山野の活動は枚挙にいとまがなく、昭和四五年に七五歳で逝去するまで近代美容に新風を吹きこみ続けた。そんな山野が提唱したのは、美容という領域を超えた〝新しい時代の婦人の生き方〟だったのだろう。間違いなく、昭和の女性の地位と意識の向上を推し進めた先覚者だった。

フォト＋日録で再現する365日

▶村山知義ら「マヴォ」第1回展開催（7月28日）ロシアの構成主義に学ぶ前衛美術家たちが、東京・浅草の伝法院で開催。落選した作品も路上に展示された。

◀摂政宮、富士登山を楽しむ（7月27日）午前11時頃山頂に到着、下山では8キロほどの「砂走り」を体験。登山口で山林局員に富士の樹木について尋ねた。写真は摂政宮（左）と西園寺式部次長ら。

「国際画報」

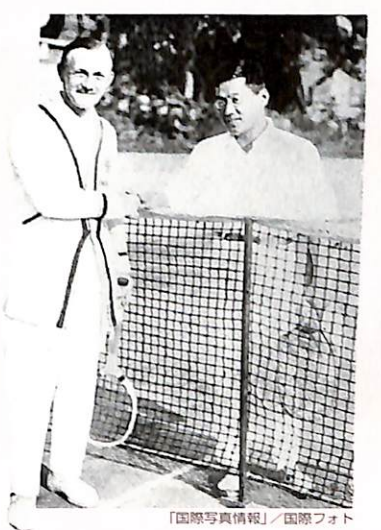
朝日新聞社

朝日新聞社

▲初の3等特急列車登場（7月1日）大衆化をはかり3等車だけで編成。東京－下関間を16時間で運転した。第1号出発の朝、東京駅は野次馬も出てにぎわった。

▶熊谷一弥（32）、ゴーワと対戦（7月4日）大正10年、ニューヨークのデビスカップ決勝戦で惜しくも敗北。この年は出場できず、来日中の英国選手と東京のローンテニスクラブでの試合を楽しんだ。

「国際写真情報」／国際フォト

▼平壌で大洪水（7月31日）豪雨のため大同江が氾濫、市内が泥の海になった。総督府が軍隊を派遣し救助にあたったが、約1万人が罹災、数百人が死亡した。

朝日新聞社

◀日本唯一の日比谷音楽堂完成（7月7日）東京市が建設、ギリシア・ローマ様式で6階ほどの高さ。ステージは幅約11メートル、奥行き約4.5メートル。観客席には約4000人のベンチを用意した。写真は陸・海軍軍楽隊と三越の音楽団の演奏が花を添えた開堂式。

「国際画報」

大正12年7月

1（日）●東京－下関間に初めて三等特急列車運行。
●静岡県沼津市市制施行。
2（月）●東京・池貝鉄工所、職工スト決議に休業宣言。
3（火）●天津居留民大会、排日運動に抗議の決議。
4（水）●英で港湾労働者スト、二万五〇〇〇人参加。
5（木）●大蔵省、松山城を久松伯爵家に三万円で払い下げ。久松家は松山市に寄付。
6（金）●ソ連、連邦国憲法を制定。
7（土）●東京・日比谷公園に音楽堂、完成。
8（日）●スパイ容疑でソ連のチタに八ヵ月投獄されていた右翼運動家・岩田富美夫、帰国。
9（月）●早稲田大隈記念講堂の設計、当選発表。
10（火）●日本航空（社長・川西竜三）、定期輸送目的の初の法人として設立。
11（水）●パリから送還された大杉栄、神戸に入港。
12（木）●京都の奥村電機商会で減給反対争議起こる。
13（金）●東京地裁、電話開設にまつわる贈収賄と詐欺事件（11年7月）に三三人有罪判決。
●名古屋農産銀行、取り付けにあい休業。
14（土）●早大講師・猪俣津南雄、共産党事件で収監。
15（日）●多摩少年院、開設。
●中国排日問題に関する国民大会、東京で開催。
16（月）●愛知県丸織会社で女工が食事差別撤廃と紛争。
●中国・宣統帝、宦官約三〇〇〇人を解放。
17（火）●不要存御料地処分令公布。皇室財産を処分。
18（水）●名古屋・尾三銀行も休業し、中京地方の金融界混乱（23日までに日銀が一億円を供給）。
●秋田・小坂鉱山で賃上げ要求し全労働者スト。
19（木）●満鉄、四〇〇万ポンドの英貨社債を発行。
20（金）●第四回割引興業債券、発売即日売り切れ。
21（土）●鐘紡、株主総会で武藤社長七割配当を発表。
22（日）●機械連合日本労技会大会、東京・芝で開催。
23（月）●岡山・中島遊廓の娼妓、知事に改善要求提出。
24（火）●連合国とトルコがローザンヌ平和条約（トルコの独立を国際的に承認）締結。
25（水）●市街地建築物法適用範囲案（東京と隣接三六町村）を、都市計画調査会に提出。
26（木）●中央金庫発行債券につき産業債券令、公布。
27（金）●摂政宮、富士登山。
28（土）●村山知義らの前衛美術家グループ「マヴォ」、第一回展覧会を東京・伝法院で開催。
29（日）●争議中の村松時計の工員ら、銀座店舗を襲撃。
30（月）●国民軍事研究団、東京会館で発会式。
31（火）●日ソ予備交渉、案件未解決のまま終了声明。

朝日新聞社

▲「民衆食堂」で米騒動5周年記念会（7月）大正7年のこの月、富山県魚津町で漁民の妻女らが米価高騰阻止に立ちあがった。米騒動の始まりである。東京・丸の内の労働者食堂が、その記念会を開いた。

「国際画報」

▶▲ハーディング米大統領急死（8月2日）全国遊説中に心臓発作に襲われ入院中、57歳だった。1921年に共和党から大統領に。死後ティーポットドーム油田疑獄事件が発覚し評価を下げた。写真右は議事堂に入る柩。

▼東海道本線で貨物列車が激突（7月1日）彦根付近にさしかかっていた下り兵庫行きと、上り品川行きが、ともに土砂崩れにきづかず突っこみ、正面衝突。列車の下敷きになった上り列車の車掌が死亡した。復旧は大量の土砂のため2日の夜になった。

証言・あの日この日
岡本綺堂（51）

11月23日（金）〈十一時ごろに起きて顔を洗ひ、火鉢の前に坐つて新聞など読んでゐると、十一時四十五分に、強震、家内一同おどろいて庭に飛び出す。近所の人々もみな駈け出して騒ぐ。本月に入つてから最も強い余震であつた。したがつて又いろいろの流言がおこなはれ、今夜の十二時には更に強い地震があるなどといふ。困つたものである〉（『岡本綺堂日記』）

驚いたのはほかでもない、関東大震災の時とほぼ同時刻の強震だったからだ。流言は東京だけでなく、〈名古屋でも廿四日の夜、強震襲来の流言で大騒ぎであつたといふ〉（11月26日）。しかも12月6日、〈新聞をみると、昨午前八時過ぎに、岡山から高知、徳島のあたりに強震があつたといふ。噂にたがはず、地震はだんだんに関西中国辺に波及するらしい。おそるべきことである〉。（坪内祐三）

▼空中給油で滞空新記録（7月28日）米陸軍の複葉機・デハビランドDH4型機の37時間15分14秒。サンディエゴ上空で別の機から給油を受けた。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▶試運転の潜水艦が沈没（8月21日）神戸の川崎造船所で進水。淡路島沖で浸水し沈没。59日目に引揚げられ（写真）、83人の死亡が確認された。

毎日新聞社

大正12年8月

1（水）●住友倉庫、設立（倉庫部が分離、独立）。
2（木）●米大統領ハーディング死去、後継クーリッジ。
3（金）●下中弥三郎ら、教育の世紀社を結成。
●鈴木貫太郎、小栗孝三郎、竹下勇、海軍大将に。
4（土）●全日本体育指導者連盟、発足。
5（日）●京都の奥村電機商会争議、西尾末広ら指導者が京都府警察部長の調停案を受け入れ、解決。
6（月）●東京・大阪の新聞社、使用漢字制限の共同社告。
●久邇宮邦彦、梨本宮守正、陸軍大将に。
7（火）●安宅商会（後の安宅産業）、ロンドンに出張所。
8（水）●宝塚少女歌劇団の大劇場新築申請、県会に。
9（木）●ILOの国際労働会議出席のため、経営代表・山崎亀吉出発（18日前田多門も）。
10（金）●蚕糸中央会、蚕価維持のため二割操短決議。
11（土）●ドイツでクノー内閣打倒のゼネスト（13日人民党のシュトレーゼマン連立内閣成立）。
12（日）●第二回全国女子競泳大会決勝、一〇〇メートル平泳ぎで一分五〇秒零の日本新記録。
13（月）●鹿児島県立病院看護婦、待遇改善要求で盟休。
14（火）●横浜正金銀行、マルク暴落のための対独為替の建値を中止。
15（水）●独のワイマールで「バウハウス展」。
16（木）●増額要求などを整理した恩給法施行令、公布。
17（金）●海軍軍備制限に関するワシントン条約発効。
18（土）●ILO労働代表に海員組合の亀井司を官選。
19（日）●読売新聞社、新社屋落成。
20（月）●全国中等学校野球大会、甲陽中学が優勝。
●「大原社会問題研究所雑誌」創刊。
21（火）●神戸・川崎造船所で進水の第七〇潜水艦、沈没。
22（水）●古河電気工業と独シーメンス社が技術提携、共同出資し、富士電機製造を設立。
23（木）●連合国軍、コンスタンチノープルを撤退。
24（金）●加藤友三郎首相が病死（25日内田康哉外相が臨時総理に就任）。
25（土）●彦根など四米穀取引所、機能不十分と解散令。
26（日）●一高・三高定期野球戦、降雨で六回中止。
27（月）●前年公布の船員職業紹介法実施の委員会設置。
●元老・西園寺公望、後継に山本権兵衛を推薦。
28（火）●盲学校及聾唖学校令公布（各道府県に設置）。
29（水）●朝鮮総督府、感化院を全土に設置。
30（木）●ペリー提督の姪、夫のニューヨーク博物館長・オスボン博士とモンゴルへの途上、来日。
31（金）●伊軍、ギリシア領コルフ島を占領（9月27日英国の圧力で撤退）。

日録20世紀1923 9~10月

◀**自警団結成(9月)** 震災直後、在郷軍人を中心に東京1145、神奈川634の自警団が組織され、「朝鮮人の暴動」といったデマにのり、多数の朝鮮人や中国人を殺害した。写真は竹槍などで武装した東京・麻布の自警団。

▼**朝鮮人を強制収容(9月)** 自警団などの殺害からの保護が目的で、約2万3700人が千葉県の習志野収容所や東京の各警察署に無一物で収容された。写真は9月下旬、軍隊に守られ東京・須田町を行く帰国を希望した朝鮮人。

毎日新聞社

毎日新聞社(左も)

◀▼**朴烈事件(9月2日)** 無政府主義者の朴烈(21)と妻の金子文子(18、左)は震災前に逮捕され、震災後、摂政宮暗殺をくわだてたと自白を強いられ、大審院で死刑判決を受けた(下)。海外の朝鮮人虐殺非難の回避策と言われるが、真相は不明。

毎日新聞社

▶**自警団取締りの布告(9月4日)** この日各所に関東戒厳司令官の布告が張り出された(写真)。通行人への誰何禁止など自警団の取締りだったが、ラジオや新聞がないため正確な情報は伝わらず、市民のデマによる不安に支えられた自警団の過激な行動はやまなかった。

「国際画報」

大正12年9月

- 1(土)●午前一一時五八分、関東地方にM七・九の大地震。東京・横浜などで火災発生(関東大震災)。
- 2(日)●朝鮮人暴動の流言広まり、殺害始まる。●山本権兵衛内閣成立。赤坂離宮庭園で親任式。●東京に戒厳令(3日神奈川に拡大)。
- 3(月)●政府、罹災者に宣伝ビラで帰郷や地方行きを奨励、鉄道・船舶の運賃無料を告示。●郵政省、貯金の無通帳・無印章払い戻し開始。
- 4(火)●関東戒厳司令部設置。工兵隊など軍隊を増強。●亀戸署、労働運動家ら七〇〇人を拘引。平澤計七ら一〇人を同署で軍隊が銃殺(亀戸事件)。
- 5(水)●戒厳司令部、午後九時以降の外出を禁止。
- 6(木)●市内一〇ヵ所の公設市場で米の販売開始。
- 7(金)●治安維持令・暴利取締令・支払猶予令、各公布。
- 8(土)●大阪株式取引所再開(株価は暴落)。
- 9(日)●警視庁、救援で入京した他府県民に帰省勧告。
- 10(月)●松竹蒲田撮影所、大半を京都に移転。
- 11(火)●閣議、罹災者の租税減免など救済策を決定。
- 12(水)●人心安定、帝都復興の詔勅(遷都を否定)。●初の海外震災救援船、中国「新銘号」神戸に入港(13日横浜到着のソ連救援船に退去命令)。
- 13(木)●鉄道省、救援のための入京者無賃乗車を廃止。
- 14(金)●川崎署、罹災地で略奪した漁船など七二隻を押収し、船頭ら六四人を逮捕。
- 15(土)●東京市内の郵便制限を撤廃、全面的に復活。
- 16(日)●憲兵大尉・甘粕正彦ら憲兵分隊で、大杉栄、伊藤野枝ら三人を殺害(24日報道解禁)。
- 17(月)●日比谷周辺に急造飲食店が三〇〇軒と新聞に。
- 18(火)●米の救援船「メリット」など二隻、横浜に入港。
- 19(水)●「磐手」と「八雲」清水港に向け芝浦を出港。軍艦による最後の罹災民輸送。
- 20(木)●白木屋(現・東急百貨店)、丸ビルで営業再開。
- 21(金)●日本窒素肥料、合成アンモニアの製造開始。
- 22(土)●東京瓦斯、一部で供給開始(11月全面復旧)。
- 23(日)●米の東京集中のため地方は品不足、と新聞に。
- 24(月)●校舎や仮小屋の避難民は四万人余、と横浜市。
- 25(火)●東京市、一日からの炊き出しをこの日で終了。
- 26(水)●名古屋市の貯木場で大型起重機使用(国内初)。
- 27(木)●帝都復興院設立(総裁に後藤新平内相)。
- 28(金)●東京婦人連合会結成。罹災者救済が目的。●東京市、屎尿処理の無料実施を決定。
- 29(土)●東京・御徒町の残土の中にダイヤが埋まっているとの噂が広がり市民が殺到、と新聞に。
- 30(日)●横浜市復興会発足。官民一体の横断組織。

毎日新聞社

▶**被服廠跡で大法要(10月19日)** 震災時、本所・深川両区の住民が陸軍被服廠跡に避難したが、折からの猛火で約4万人が焼死した。四十九日にあたるこの日、大追悼式が行われ、市民10万人が参拝した。

横浜開港資料館蔵

◀**屋上で緊急横浜市会(9月11日)** 生き残った議員39人が、崩壊をまぬがれた市立中央職業紹介所の屋上に集合。横浜復興を「帝都復興事業の一環に」と決議、政府への陳情を決めた。

「国際画報」

▲**乗合馬車復活(9月6日)** 市電が壊滅状態の中で、庶民の足として乗合馬車が登場、上野―品川間などを往復した。翌年1月、復旧の遅れる市電に代わって市営バスが誕生し、交通の主役となった。

◀**露天学校の児童たち(10月)** 震災の罹災児童は、東京市内だけでも14万8000人、焼失した小学校は120校におよんだ。仮校舎が建てられ、10月1日に開校したが、6割程度しか収容できず、野外教室をはじめ、2部、3部授業が行われた。

「国際写真情報」/国際フォト

▶**ビアード博士来日(10月6日)** アメリカの都市計画の専門家。復興院総裁・後藤新平の招きで来日、第一声は「幹線道路を作れ、計画前の建設中止」。後藤の構想を具体的な復興計画書にまとめ提出した。

朝日新聞社

▶**トルコ共和国誕生(10月29日)** 共和制移行法案がトルコ大国民議会と人民大会で可決され、写真のムスタファ・ケマル(41)が初代大統領に就任。翌年にはカリフ制を廃止、オスマン王家全員を国外追放した。

オリオン・プレス

大正12年10月

- 1(月)●大日本雄弁会講談社『大正大震災大火災』刊行(以後、各社の震災関連出版相次ぐ)。
- 2(火)●日活、慰安興行を開始。「大震災実写」を上映。
- 3(水)●東京質商組合、公営質屋開業を陳情と新聞に。
- 4(木)●警視庁、自警団の取締り規則を発表。
- 5(金)●震災地宛小包郵便の取り扱い開始。
- 6(土)●米国都市計画の権威・ビアード博士、後藤新平の招きで東京復興計画顧問として来日。
- 7(日)●在中国ソ連大使カラハン、後藤内相に書簡を送り、日ソ親善を期待する、と表明。
- 8(月)●第一師団軍法会議、憲兵大尉・甘粕正彦の公判開始(12月8日懲役一〇年の判決)。
- 9(火)●大蔵省、震災損害額は約一〇〇億円と発表。
- 10(水)●第一回国際農民大会、モスクワで開催。
- 11(木)●オーストラリアの震災救援船、横浜に入港。
- 12(金)●大日本火災連合会、国内の各社が支払うべき保険契約金は一五億九〇〇〇万円強と発表。
- 13(土)●米穀委員会、震災の善後措置として約五〇万石の内地米を買い入れと発表。
- 14(日)●東京市参事会、震災善後予算を審議。
- 15(月)●山本首相、普選断行のため委員に五大臣を任命(16日普選準備調査委員会の初会合)。
- 16(火)●大杉栄、伊藤野枝の仮葬儀(福岡県今宿村)。
- 17(水)●澤田正二郎一座、日比谷音楽堂で罹災者慰安の野外劇。観客二万人(以後興行が活発に)。
- 18(木)●震災後この日まで発生の伝染病(赤痢・腸チフスが主)患者数三六八六人(六二四人死亡)。
- 19(金)●東京府・市連合の震災遭難者大追悼会、本所の陸軍被服廠跡で開催。
- 20(土)●樺島勝一の子どもマンガ「正チャンノバウケン」、「東京朝日新聞」に連載開始。
- 21(日)●独のアーヘンでライン共和国成立宣言。
- 22(月)●警察官・消防士官服制改正公布により、必要に応じて警察官の拳銃携帯が認められる。
- 23(火)●独ハンブルクで共産主義者蜂起(25日鎮圧)。
- 24(水)●東京・京橋区で避難民に配給制限(徒食防止)。
- 25(木)●日本航空輸送研究所、魚群探索飛行を実施。
- 26(金)●後藤新平、復興費約一二億円と大綱を説明。
- 27(土)●法制審議会、普選問題で婦人参政権を否決。●東京株式取引所、天幕の仮事務所で再開。
- 28(日)●東海道本線、全線復旧。
- 29(月)●トルコ、共和国宣言(大統領にケマル)。
- 30(火)●文部省、初の成人教育講座を大阪で開講。
- 31(水)●全関西婦人デー(罹災者救援活動)を実施。

▲**京都で映画制作（11月15日）**震災で撮影所が壊滅したため、9月には松竹蒲田が下加茂へ。この日、日活向島撮影所も女優たち（写真）と京都へ移った。

◀**舞台協会のカフェー開店（11月）**東京・有楽町のガード下に作られ、店名は「ステージ」。女優たちがウエートレスをつとめて人気となった。中央洋装のエプロン姿は岡田嘉子。震災で舞台がなくなったために開業。

▲**早慶ラグビー対抗戦（11月23日）**新進・早稲田と強豪・慶応の試合が早大グラウンドで行われ、23対3で慶応が勝った。写真は万歳三唱する慶応の選手。

◀**富本憲吉（37）、大阪で作品展（11月6日）**大阪・心斎橋筋で開き、この年に制作した150点を展示した。絵高麗は新しい試みだった。写真は富本夫妻。

▼**関東に布団を（11月9日）**関西婦人連合会は、大規模な運動を展開。この日、社会運動家の賀川豊彦は、大阪・梅田駅前で冬を迎える東京に布団をと訴えた。

▼**ヒトラー、ミュンヘンで一揆（11月8日）**全国支配をたくらみ、第1次大戦の英雄ルーデンドルフ（中央）と翌日にかけ武装蜂起したが、軍部などの反対で失敗し逮捕された。右から4人目がヒトラー。

CORBIS-BETTMANN/PPS

大正12年11月

1（木）●安田系一一銀行合併、安田銀行発足。
2（金）●大企業の復興資金借り入れ総額一億円突破。
3（土）●警視庁、各署に自警団の解散を指示。
●久布白落実、羽仁もと子ら全国公娼廃止期成同盟会を結成（25日公娼廃止デー）。
4（日）●震災以来の火災はこの日までに四八件、消防自動車不足のため失火に注意、と警視庁。
5（月）●郵政省、年賀郵便の特別扱いの中止を決定。
6（火）●大阪でコレラ流行。この日五人罹患、死者三人。
7（水）●宮内省図書寮、二五万巻の和漢籍公開を決定。
8（木）●独、ミュンヘンでヒトラーらが州政府転覆をはかって武装蜂起（ミュンヘン一揆）。
9（金）●宮内省、罹災した子爵・桜井義功の唐物屋開業願いを体面を汚すと不許可。
10（土）●海軍第二次整理で工員四四九六人を解雇。
●国民精神作興に関する詔書を発布（17日文部省、教育関係者に趣旨の徹底を訓令）。
11（日）●日比谷で各国大公使招き、震災救援感謝デー。
12（月）●米大審院、西部の排日土地法を合憲と判決。
13（火）●日本基督教連盟発足。プロテスタント系合同。
14（水）●前橋地裁、震災直後の朝鮮人一七人殺害に懲役五年など一三人に有罪判決（被告三四人）。
15（木）●独、超インフレでレンテンマルク紙幣発行。
16（金）●大阪市、八二の木造橋の不燃化工事に着手。
17（土）●東京・芝浦にバラックの臨時魚市場が開場。
18（日）●大日本ホッケー協会設立（12月第一回大会）。
19（月）●東京府が物価調査。たわし一四～三四銭、釘一四～二一銭と値段に大きなバラつき。
20（火）●大阪の公私立中学校長会、受験競争緩和で学科試験全廃、メンタルテスト実施を決定。
21（水）●地方への震災罹災者に自殺や行き倒れがふえ、一〇月以来全国で三〇人を超える、と新聞に。
22（木）●閣議、火災保険の一割支払いを決定。
●上野署、上野公園内にある一五〇軒の露店の強制立ち退きを実施。
23（金）●大日本医師会が解散し日本医師会を設立。
24（土）●関西婦人連合会からの布団八〇〇枚を配布。
25（日）●日赤、個別訪問による初の幼児健康診断開始。
26（月）●麻生豊のマンガ「のんきな父さん」連載開始。
27（火）●内務省、賃金高騰緩和と建築のスピードを上げるため全国から大工七万人募集計画を発表。
28（水）●京都帝大に農学部設置が決まる。
29（木）●バラックで厳冬をしのぐ法を新聞が掲載。
30（金）●大阪市長に前第一助役・関一が就任。

▲▶**虎の門事件（12月27日）**議会の開院式に向かう御料車が、虎の門にさしかかった時、甘粕事件などで反天皇感情を強める無政府主義者の難波大助（24、上）が、車中の摂政宮を狙撃したが失敗。翌13年11月に死刑が執行された。写真右は事件後議会に向かう摂政宮。

毎日新聞社

朝日新聞社

▼**ミルクステーション開設（12月）**11月に帰国したビアード博士を通じてアメリカから寄贈され、日比谷、九段など5ヵ所に設置、学生たちが罹災の乳児に牛乳を配った。学生の救済活動は、後の社会福祉運動の原動力となった。

▲**廃娼運動、議会へ（12月14日）**廃娼運動は、11月から震災で焼失した遊廓の再建不許可を求める活動で活発化。この日衆議院に押しかけ、松山常次議員の公娼廃止案に同調するよう求めたが、熱意空しく審議未了で廃案となった。

朝日新聞社

◀**上野動物園、無料公開（12月11日）**罹災者慰安のために25日まで臨時開園した。この間、7万9645人が来園した。震災ではカバ室、熊・小肉食獣室の壁が崩れ、象室のガラス窓が破損した程度で、動物に大きな被害はなく、13年1月1日から正式に開園した。

朝日新聞社

大正12年12月

1（土）●東京・築地仮市場の開場式を挙行。
2（日）●陸軍自動車隊一四台、東京―仙台間の雪中・渡河行軍に出発。
3（月）●解散した銀行は一月以来、七四行と大蔵省。
4（火）●仙台米穀取引所が解散（12日和歌山も）。
5（水）●宮内省、女官七人を任命。源氏名廃止と既婚女性五人の任命は、女官制創設以来初めて。
6（木）●米から初の除雪車到着。信越本線などに配備。
7（金）●浅草寺のおみくじの売れ行きが震災前の一日三〇〇〇枚から八〇〇〇枚に増加、と新聞に。
8（土）●バラック居住者は八万五六四八人、と東京市。
9（日）●王子製紙、インディアンペーパー製造に成功。
10（月）●東京帝大に地震学科設立（主任・今村明恒）。
11（火）●上野動物園、震災慰安で無料公開（～25日）。
12（水）●東京市、資材暴騰緩和のため木材の廉売決定。
13（木）●呉海軍工廠で建造中の戦艦「加賀」、ワシントン条約適用外の航空母艦改装に着手。
14（金）●東京帝大セツルメント結成。
15（土）●日豊北線が完成し、小倉―鹿児島間が開通。
16（日）●岡田武松中央気象台長、英国王立気象学会のサイモンス賞の受賞決定（13年1月授賞式）。
17（月）●この冬は石油ストーブが人気。取り扱いが簡単で、ガスや石炭より安価なため、と新聞に。
18（火）●無産政党の結成めざし、政治問題研究会発足。
19（水）●宮内省、華族の世襲財産処分禁止を解除。
20（木）●逓信省、放送の私設を認可（公共放送実施へ）。
●大阪市内の印刷所で、二百円札三億円分の印刷開始。民間での紙幣印刷は初めて。
21（金）●札幌の最高気温が四度で、明治二三年観測以来の高温のためスケート場は閉鎖、と新聞に。
22（土）●東京鉄道局、省線の混雑緩和のため東京―渋谷間に直通の急行列車運行を開始。
23（日）●建築労働者の賃金高騰、一日一〇円と新聞に。
24（月）●帝都復興法、特別都市計画法を公布。
25（火）●この年の貿易収支は五億三千万余円の入超。前年より二億八千万余円の急増、と農商省。
26（水）●山陰本線三隅―益田間開通。山口線と繋がる。
27（木）●難波大助、東京・虎の門付近で、議会に向かう摂政宮に発砲（虎の門事件）。
●山本内閣の全閣僚辞表提出（30日受理される）。
28（金）●鉄道の車掌などに警察権を認める勅令公布。
29（土）●海軍、初の航空機用エンジンの開発に成功。
30（日）●大成火災海上、火災保険一割の支払いを開始。
31（月）●九割復旧した東京市電、終夜運転を実施。

流行語
日本はマスヒステリー状態

「流言蜚語」。この年ほど「流言蜚語」という言葉が飛びかった年も珍しい。その最たるものは震災時の〝朝鮮人暴動〟に関するものだが、この年二月、ソ連の要人ヨッフェが国交回復交渉のため来日すると、日本を赤化させる計略だとして、いろいろなデマが流れた。その中には「赤木や赤尾など赤のつく姓はロシアのスパイだ」というものまであった。日本は大震災以前からマスヒステリー状態で、〝朝鮮人暴動〟のデマはそれが爆発したものとも言われる。

「この際だから」。大震災ですべてが瓦解した結果、それまでの生活を見直そうという動きが出てきた。その動きは髪型から洋装と和装の比較、冠婚葬祭にまでおよんだがそれを表すのがこの言葉。背広に靴のサラリーマンスタイルが一般化したのはこの時以降である。

「鈴ケ森」。首切りのこと。大震災前の日本経済は第一次大戦後の不況で、あちこちで首切りが行われていた。東京・鈴ケ森には江戸時代、処刑場が置かれていたことからこんな言い方が流行した。「ジリ貧」という言葉も、業績がずるずると下がっていく会社を表すものとして使われた。

社会
女が六分に男が四分
結婚相談所の逆転現象

人心ようやく平静になった昨今、結婚媒介所の景気を調べてみると、九月は遠慮して休業し一〇月になって再開したが、どこも素晴らしい景気で四〇～五〇人の申し込みがあったという。年齢は男が三十五、六歳から四十五、六歳までの働き盛りで、女は二八歳から三十五、六歳。再婚希望が多いのは例年どおりだが、いつもなら男の申し込みがほとんどで女は少しというのに、今年は女が六分に男が四分とまったく逆の現象を示している。

しかも女の希望する条件は震災前より大変低くなり、この際だから男の教育程度はあまりかまわず生活の安定を欲しているのに対して、男の申し込み者は欲張りで、器量がよいうえに多少の持参金がなくてはというのが条件である。それでも例年ならなかなかまとまらない縁談が、今年に限っては意外なくらい早くまとまっていくそうだ。

(「読売新聞」一〇月二四日)

◀この年3月、スポーティーな洋装で、ビリヤードに挑戦する女優・夏川静枝。戦後も映画、テレビで活躍した。 毎日新聞社

CM100年

新聞CM「此の一杯に初恋の味がある——カルピス」(カルピス食品工業)

▲このキャッチフレーズは戦前、戦後を経て、現在まで使われてきた。

のんきな父さん

サァいらっしゃい一パイ五銭じゃ

ヤ、いらっしゃい

おちるこおくれ

やけだされかい それなら金はいらないよ

ウン

みんなやけだされだよ

おちるこおくれ

おちるこおくれ

▲マンガ「のんきな父さん」の連載が、「報知新聞」10月26日夕刊から始まった。作者は麻生豊。

食
そば屋でカレーライス
大震災で面目を一新

そば屋の店構えは明治以来少しも変わらず、土間から畳敷きの広間へ続くという形がほとんどだった。神田の藪蕎麦は先頭切って椅子席を設けたがまねをする店はなかった。古い形態のままでも客が来たからである。素朴で保守的なそば屋が面目を一新したのは大震災で何もかも壊滅した後であった。この際だからと、ほとんどの店がテーブル式を採用したのである。

そば屋がカレーライスやカツどんなどを扱うようになったのもこの時からである。ほかの飲食業は専門の枠を超えてさまざまな商品を扱うようになっていたので、対抗上始めた商策がそのまま定着したもの。そして震災後にはそれまで主流を占めていた手打ちが影をひそめ、機械打ちに変わった。

(昭和女子大学食物学研究室編『近代日本食物史』)

三面記事
東京は深刻な自動車不足

「自動車があったからこそ震災後の急場を救うことができたのだ」と、東京では運転手の鼻息がすこぶる荒い。実際、自動車はいくらあってもたりず、ふだんなら使いものにならないボロ自動車まで走りまわっている。運転手の日当はトラックつき、ガソリン、弁当相手持ちで五〇円、それでもまだまだ上昇中。現在、市中で動いている自動車は運搬用乗用合わせて四〇〇〇台そこそこ。代理店のストックは全部焼け、唯一、梁瀬の工場にあった五〇台だけが難をまぬがれたが、これは三日で売り切れた。自動車不足を見越して、門外の商人まで自動車を輸入せんとしているが、中でも星製薬はフォード一万台(約一五〇〇万円)を注文して同業者を驚かせている。

(「大阪毎日新聞」一〇月三日)

◀2月20日、午後6時から東京・神田青年会館で開かれたボーリング大会。 朝日新聞社

珍商売
もうけ頭は貸し畳屋
便乗商法あれこれ

未曾有の大震災では便乗商売が随分登場した。その中のもうけ頭は貸し畳屋である。四谷の難を逃れた旅館が始めたもので、畳一畳か二畳で一泊二円くらいにした。浅草の不良少年団が焼土運びで日当を稼ぐ一方、その焼土をコの字形に盛って、その場所を売ったこともある。みんな「自分だけの場所がほしい」と言うので、そんなものでも商売になった。比較的まっとうなのではマスク屋がいた。後かたづけの煤除けや遺体の臭いを避けるためで一個一〇銭、浅草では数十人のマスク屋がズラリと並んでいた。

(「実話雑誌」昭和七年九月号)

動物
猛火の中で象に水かけ
園丁の努力およばず……

浅草・花屋敷の動物は、開園当初からこの遊園地の呼びもののひとつであったが、大震災の時には動物たちの処置に大変苦労している。地震にともなって発生した大火のために、人身への危害を考慮して虎そのほかの猛獣類はただちに射殺した。幸い鹿二頭、熊五頭、猿十数匹と小鳥類若干が檻の中の水たまりにつかっていて助かったが、これは園丁・福井西造が水を絶やさぬように必死に努力したたまものであった。福井は六〇歳を超す老象にも水をかけ続けたが、二歳の子象と子虎六頭などを五重塔の下に避難させて戻ったらすでに猛火が迫っていて、ついに老象は黒焦げになってしまった。

猛火の中で福井が動物たちに示した愛情には感動させられるが、その愛情を知っていたかのように、空に逃がした鷲が七日の完全鎮火と同時に舞い戻ってきたという。

(内山正雄・蓑茂寿太郎『東京の遊園地』)

▲1月25日、羽仁もと子創設の目白自由学園で、園生が英語劇を上演。「国際画報」

▲1月21日午後1時、隅田川寒中水泳が両国橋畔で行われた。「国際画報」

この年の初もの
「ハットケーキ」という名でホットケーキお目見え

●**別冊付録** 「婦人倶楽部」が単行本形式の付録をつけ別冊付録と称したのが始まり。

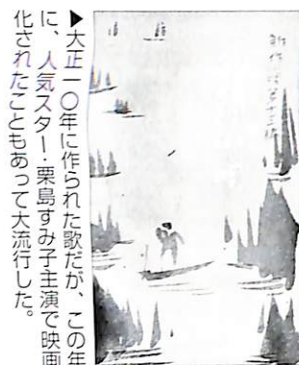
●**地下足袋** つちや足袋(後のブリヂストン)が発売。農民や職人の必需品となった。

●**街頭立ち飲み屋** 背中に酒を入れたタンクを背負い一杯一〇銭で飲ませるもの。震災前の「丸ビル」界隈に登場。

はやり歌

船頭小唄
作詞 野口雨情　作曲 中山晋平

おれは河原の枯れすすき
同じお前も枯れすすき
どうせ二人はこの世では
花の咲かない枯れすすき

死ぬも生きるもねえお前
水の流れになに変わろ
おれもお前も利根川の
船の船頭で暮らそうよ

枯れた真菰に照らしてる
潮来出島のお月さん
わたしゃこれから利根川の
船の船頭で暮らすのよ

なぜに冷たい吹く風が
枯れたすすきの二人ゆえ
熱い涙の出たときは
汲んでおくれよお月さん

▶大正一〇年に作られた歌だが、この年に、人気スター・栗島すみ子主演で映画化されたこともあって大流行した。

月の沙漠
作詞 加藤まさを　作曲 佐々木すぐる

月の沙漠をはるばると
旅の駱駝がゆきました
金と銀との鞍置いて
二つならんでゆきました

金の鞍には銀の甕
銀の鞍には金の甕
二つの甕はそれぞれに
紐で結んでありました

さきの鞍には王子様
あとの鞍にはお姫様
乗った二人はおそろいの
白い上着を着てました

広い沙漠をひとすじに
二人はどこへゆくのでしょう
朧にけぶる月の夜を
対の駱駝はとぼとぼと

沙丘を越えて行きました
黙って越えて行きました

◀作詞者の加藤まさをは、明治三〇年生まれの画家、詩人。抒情画、抒情詩の世界で、竹久夢二、蕗谷虹児と並ぶ存在に。

世界の動き

トーリオ一家 vs. オドンネル一家
禁酒法下のシカゴで「ビール大戦争」
24歳の〝代貸〟アル・カポネ売り出す！

ジョン・ハック・ミラー／WWP

▲1929年2月14日の朝、カポネと対立するジョージ・モランの配下7人が、倉庫代わりのガレージにおびき寄せられ、警官に扮した殺し屋にマシンガンと散弾銃でなぎ倒された。

一九二〇年にアメリカで発効した「禁酒法」は、アル・カポネという名の一人の〝ヒーロー〟を生み出した。貧しいナポリ移民からシカゴの犯罪組織のトップにのぼりつめ、非合法の世界ではあるがアメリカンドリームを体現したカポネは、大衆の憧れの的でもあったのだ。

「ビール大戦争」を制し二六歳で組織の頂点に

「両手をあげろ、さもなければ地獄行きだ！」

一九二三年九月七日の夜、シカゴの一軒の酒場を訪れたアイルランド系ギャング、オドンネル四兄弟と配下の三人を、拳銃を手にした四人の男が出迎えた。威嚇射撃で四兄弟を追い払い、オドンネル一家の参謀格オコナーを店の外に連れ出すと、男たちの一人は銃身を切り詰めた散弾銃でその頭を吹き飛ばした。「ビール大戦争」の勃発である。それから一〇日後には、オドンネルの手下二人が、乗っていたフォードごと蜂の巣にされた。

三年前の一九二〇年一月一七日に発効した「禁酒法」は米国各地にもぐりの酒場を生み、密造酒販売に乗り出したギャングは、大衆の無言の支持を得て、勢力範囲を拡大していた。シカゴのギャングたちは顔役ジョン・トーリオの提案で縄張りを決めていたが、市場拡大をねらったオドンネル一家はトーリオがビールを卸す酒場を襲撃した。二つの殺人事件はそれへの報復である。この事件で真っ先に警察に事情聴取されたのが、一九一九年にニューヨークからシカゴに来てトーリオの片腕として頭角を現していたアル・カポネ（二四）だった。シカゴ市長は「解決するまで徹底的に追及する」と息巻いたが、結局証拠不十分で釈放された。

「ビール大戦争」と呼ばれたオドンネル一家との抗争に続いて、新たに起こった戦いは結果的にカポネを組織のトップに押しあげていく。二四年五月、アイルランド系ギャングのオバニオンの奸計によりトーリオが逮捕されると、この裏切りにカポネは銃弾でこたえる。一一月一〇日、オバニオンは五発の銃弾を撃ちこまれた後、頭部にとどめの一発を受け死亡した。このオバニオン殺しは、再びシカゴを〝殺人街〟に変えた。オバニオンの後を継いだヴァイスは翌二五年一月一二日、カポネをねらうが失敗。一月二四日にはトーリオも自宅前で襲撃された。重傷を負って引退を決意したトーリオから事業のすべてを譲られたカポネは、二六歳の若さで組織の頂点に立ったのだった。

一九二五年一〇月一一日、執拗にカポネをつけねらっていたヴァイスは、一〇発の銃弾を受けて死体となった。シカゴで「大親分」と言われた四人のうちオバニオン、トーリオ、ヴァイスの三人が消え、残るはカポネ一人。一〇月二〇日、シカゴの「ホテル・シャーマン」のVIPスイートに集まったギャングたちは和睦協定を結ぶ。貧しいナポリ移民の床屋の息子だったカポネは、シカゴ暗黒街のナンバーワンとなった。さらに年間三〇

▶押収したビールを、惜しげもなくミシガン湖に捨てる連邦禁酒法取締り官。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲1928年5月のポートレート。この年、カポネはフロリダにプールつき豪邸を購入している。 CORBIS-BETTMANN／PPS

外から見たNIPPON

「炎の街を横切った」詩人ポール・クローデルの震災記録

佐伯 修

「あらゆるものが揺れていた。大地が身のまわりで突然、まるで怪物のように動くのを見るのは、生命を受けたかのように動くのを見るのは、名付けようのない恐怖である」（内藤高訳）

二〇世紀フランスの代表的な詩人・劇作家の一人であり、大正一〇年から昭和二年まで駐日大使をつとめた、ポール・クローデル（五五）は、東京・九段の仏大使館内で関東大震災に遭遇した。彼は、館内の無事を確認するや、「日本におけるフランスの利益の一切を手中に収めている横浜の三百人のフランス人」の安否を確かめるべく、ただちに自動車で出発する。横浜に近い逗子には、彼の愛娘も滞在していた。

横浜は、完全に壊滅していた。

「死体また死体、衣服はなく皮膚さえもない。葡萄の蔓のように捩じれた赤と黒の姿。郵便局の前には半ば荷を積んだトラックがある。運転手はドアの前に倒れ、助手は地面に投げだされている」

その後娘の無事は確認されたものの、彼はかつての同僚だった外交官の無残な遺体と、この街に凝縮されていた「五十年来外国人たちが日本で築き上げてきたもの全て」の崩壊を、目のあたりにせねばならなかった。

それにしても、このような大災害に遭いながら、「唐突な動きとか人を傷つける感情の爆発」をおさえ、助けを求める時さえも「お願いします」と言う日本人の慎ましさには、彼も驚かずにはいられない。同時に、地震や台風に縁遠い国の人として、彼が次のような感想を抱くのも無理はない。

「大津波、台風、火山の噴火、地震、大洪水などたえず何か大災害に晒された日本は、地球上の他のどの地域よりも危険な国であり、つねに警戒を怠ることのできない国である」

「東京に着任して以来、われわれは絶えず大地の身震いや足元の轟音、ひっきりなしに起こる大火の歓迎を受けた。（中略）日本人は自らを取り巻くあの危険に満ちた神秘に対する感情を決して失なうことがない。この国はそこに住む人に熱烈な愛情の念を抱かせる。だが決して信頼の念をではない。常に注意しなければならぬ」

以上、震災直後に書かれた「炎の街を横切って」から見てきたが、同じく散文集『朝日の中の黒い鳥』（一九二七年）におさめられた、翌年執筆の「一年の後」で彼は言う。「近い将来、足元を再び鈍い振動が襲うのを私はまた感じとることだろう。ちょうど奈良の森深く、釣り鐘の音ではなく震えが伝わってくるようなあの感覚である」。

▶日本で戯曲『繻子の靴』を書き上げたポール・クローデル。

○○万ドルもの莫大な賄賂で警察や判事、政治家を買収し、シカゴで最も力のある男となったのだ。

「公衆の敵」の筆頭が一方で大衆のヒーロー

年収一億五〇〇〇万ドル以上、非合法ビジネスはもとより九一の企業と労働組合を支配すると言われ、「懐にピストルを忍ばせたロックフェラー」と呼ばれたカポネは、また大衆の人気者でもあった。「走る要塞」と言われた防弾装甲車が市内を進むと、「アルの車だ！」と歩道には人垣ができた。また一九二九年一〇月、大恐慌が起こると、いちはやくシカゴで七ヵ所の無料スープ配給所を始めたのもカポネだった。

その一方では二九年二月一四日、ウイスキーの供給を断たれた報復に「聖バレンタインデーの大虐殺」として犯罪史上に名高い大量殺人もやってのける。血の海となった現場にはマシンガンの乱射を受けた七人の死体が転がっていた。

三〇年、シカゴ犯罪委員会は「公衆の敵」を発表したが、筆頭にあげられたのは当然のようにカポネの名前だった。

しかし一九三一年、カポネの運命は大きく傾き始めた。連邦捜査局（FBI）はカポネ逮捕におよび腰だったが、三月、財務省特別諜報部に脱税で起訴され、一一年の懲役、罰金五万ドル、法廷費用三万ドルの支払いを宣告される。さらにカポネの体は梅毒にむしばまれていた。サンフランシスコ湾に浮かぶアルカトラズ島の重警備刑務所から、病院のあるサンペドロ刑務所に移送された後、三九年一一月一七日に出所したカポネはフロリダの別荘でひっそりと暮らしていたが、一九四七年一月二五日午後七時二五分、四八歳でこの世を去った。

「一〇年間で絶大な権力と財力を持つ地位にまでのしあがったカポネは、裏口からアメリカンドリームを体現した男だった。その意味で彼は大衆のヒーローでもあったのです」（翻訳家・常盤新平氏）

カポネが有罪判決を受けた時、検察側は「これは過去一〇年間、シカゴが悩まされてきたギャングたちが、年貢の納め時を迎えたことを意味する」と語ったが、「高貴な実験」と言われた「禁酒法」は、皮肉なことに犯罪組織の資金源を太らせ、アメリカ社会の中にギャングが深く根づいてしまう結果を招いたのである。

アル・カポネ（1899〜1947）
米国のギャング。ニューヨークで暴力団員となり、シカゴへ移住。「禁酒法」下酒の密売で巨利を得る。

CORBIS-BETTMANN　PPS
▲息子ソニーと野球観戦し、G・ハーネット選手と語るカポネ。

往きて還らぬ

▲11月14日　島田三郎(71)
元毎日新聞社社長、衆議院議長。雄弁家として知られ、足尾鉱毒事件、廃娼運動などでも活躍した。

▲12月12日　レイモン・ラディゲ(20)
フランスの小説家、詩人。14歳で詩作を始め、20歳で小説『肉体の悪魔』を発表して早熟の天才と言われた。

毎日新聞社
▲12月28日　A・G・エッフェル(91)
エッフェル塔を設計したフランスの技師で、鉄骨構造技術のパイオニア。ギャラビの高架橋など多数の橋梁を設計。

▲12月29日　河野広中(74)
政治家。幕末には尊攘論を唱え、維新後は自由民権運動家として活躍。衆議院議長から、大正4年農商務相に就任。

▲8月24日　加藤友三郎(62)
日露戦争では、連合艦隊参謀長として日本海海戦を指揮。海相を経て大正11年首相に就任したが、在任中病死。

▲9月2日　厨川白村(42)
評論家、英文学者。明治45年『近代文学十講』、大正4年には『近代の恋愛観』で若者の心をとらえた。大震災で死亡。

▲11月8日　大森房吉(55)
地震学の開拓者で、大森式地震計の考案、地震帯の発見、津波の研究など多くの業績を残した。著作『地震学講話』。

毎日新聞社
▲6月5日　鳥潟右一(40)
明治〜大正期の無線通信の第一人者。明治45年、横山英太郎らと日本初の実用無線電話、TYK式無線電話を発明。

▲6月10日　ピエール・ロティ(73)
フランスの小説家。海軍軍人として世界中をめぐりながら執筆。1885年以降2度来日、小説『お菊さん』を残した。

毎日新聞社
▲1月14日　金原明善(90)
社会運動家。豪農の家に生まれ、明治7年天竜川堤防会社を設立、治水・治山事業に尽力。出所者保護でも貢献。

▲2月10日　W・C・レントゲン(77)
ドイツの物理学者。1895年陰極線を研究中に未知の放射線、X線を発見。1901年第1回ノーベル物理学賞を受賞。

▶3月26日　サラ・ベルナール(78)
天才として伝説化されたフランスの名女優。「椿姫」などロマン派的悲劇のヒロインを演じて大成功をおさめ、第一次大戦では戦地慰問を行った。

ミニ事典
1923年のキーワード

藤田農場小作争議
日本農民組合が指導した大正期の代表的な争議。大正一一年藤田組が、岡山県児島湾の直営農場一二〇〇町歩の機械化・省力化の強行をはかったため、小作人が反発。この年一月に五〇人が検挙されながらも争議は衰えず、五月に藤田組が農場の半分を解放するなどの譲歩案を示して終息した。小作争議の高揚を背景に、この年をピークにして、五〇町歩を超す大地主は農業への資本投下を減らし撤退をはかっていた。

婦人参政同盟
普選運動が本格化する中、二月二日に創設された婦人の参政権獲得を実現しようとする団体。同日、東京・神田の明治会館で発会式が行われ、革新倶楽部の河本かめ子、婦人連盟の児玉真子ら各派婦人団体代表が出席。以降、婦人参政権を議会に提出するように活発に働きかけた。しかし、大正一四年普選法は成立したが、婦人参政権は認められなかった。

競馬法公布
競走馬の着順を予想して馬券を買うかけごとを公式に認め、その内容を規定した法律。目的は馬の品種改良と畜産の振興だった。四月一〇日公布。「馬場は長さ一マイル以上、幅一二間以上を要す」「勝馬投票券の発売・払戻金の公布は競馬会が行う」など法運営のための施行規則が実施され、庶民が晴れて馬券を買うことができるようになった。

▲四月二八日、東京・目黒競馬場は馬券復活でファンがスタンドを埋めた。
朝日新聞社

土足入店
下駄履き、靴履きのまま店に入ること。大震災を境に洋風化・合理化の名のもとに一気に増加した。五月一五日の白木屋神戸出張所が最初。本格化するのは、一一月に改装オープンした東京・銀座の三越で、各階の床をアスファルトにし全館土足入店にした。それまでの百貨店は、入り口で履きものを預け、下足札を取って入店していた。

国共合作
中国国民党と中国共産党の連携。中国共産党が六月に広東で開いた第三次全国代表大会で決定。共産党員が個人の資格で国民党員になることで達成した。この合作は前年、コミンテルンから派遣されたマーリンが仲介し、一九二四年一月、国民党が「連ソ・容共・工農扶助」の新政策を決め、正式にスタートした。

赤化防止団
社会主義思潮の台頭、小作争議・労働争議の頻発とともに先鋭化してきた右翼団体のひとつ。六月二六日、団長の米村嘉一郎が、社会主義者・高尾平兵衛を米村の自宅で射殺、前年の後藤新平邸襲撃に続いて世間を騒がせた。三月には奈良県で大日本国粋会が解放運動の全国水平社と乱闘事件を起こすなど、この年、「行動右翼」の過激な活動が目立った。

バラック
大震災で瓦礫の山となった東京に、雨後の竹の子のように出現した緊急の仮住居。広さは四畳半程度、板張り、トタン張りに床はむしろ敷きといった雨露をしのぐ程度の粗末な小屋が多く、東京市でも罹災民を収容するため上野、芝、日比谷公園などに建設した。警視庁の九月二〇日のまとめでは、バラックが約三万戸、居住者は約一七万人だった。

▲一二月頃からは、二部屋以上ある本格的なバラック建設が始まった。
「国際画報」

東京遷都論
首都をよそに移すべきとする遷都論が、大地震七〇年周期説をもとに学者や民間で高まった。陸軍も極秘に遷都を検討、ソウル周辺、兵庫県加古川流域、八王子などを候補地とした。しかし、政府は九月一二日、東京を首都として復興するという異例の詔勅を出してこれらを否定した。

帝都復興計画
国が焦土となった首都・東京を再建するための計画。九月一九日に山本権兵衛首相を総裁とする帝都復興審議会が発足、二七日には後藤新平を総裁とする帝都復興院が創設され、計画の具体化がはかられた。後藤は復興計画顧問としてアメリカからビアード博士を招き、丸の内を中心とする欧米風放射状道路網の建設など、大改造をともなう斬新な構想を示したが、予算の大幅削減のため計画は修正を余儀なくされた。

レンテンマルク
一月のパンの価格は二五〇マルクだったが、七月には二〇一〇億マルクに暴騰、一ドルが四兆二〇〇〇億マルクと、超インフレに悩む敗戦国ドイツで、一一月一五日に発行された銀行券。全産業の保有資産を担保にした三二億レンテンマルクまでの保証を裏づけしたもの。政府は同時に、それまでの無制限な紙幣発行を中止したため、インフレは急速に沈静化に向かった。

ユニフォト・プレス
▲壁に貼られる無価値になったマルク紙幣。

メンタルテスト入試
大阪府の府立一五校、私立三校の中学校長会が一一月一〇日に、次年度の入学試験はメンタル（心理）テストの採用、学科試験全廃という、画期的な決議をした。校長会は進学熱の高まりの中、課外授業の延長、個人塾の増加など激化する小学生の入試競争の緩和策としたが、メンタルテストに信頼性がない、学校増設が急務といった反対論におされ、二八日、学科試験全廃は撤回された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1923

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーション ハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
石井美雄 石崎千鶴子 大沢正道 大杉豊 王丸恵子 王丸容典 岡田紅陽 岡田ちゑ子 奥村健太郎 角田博 近藤千浪 新貝雄 菅沼幸子 松下竜一 真辺致一 ジョン・ハック・ミラー 米津孝 朝日新聞社 オリオン・プレス 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 国際フォト PPS 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 ROGER-VIOLLET WWP 倉敷市立美術館 尚古集成館 東京都公文書館 東京都復興記念館 日本玩具資料館 日本共産党 日本近代文学館

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第29号 9月2日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1971［昭和46年］

●特集
三六時間の突貫工事で、マクドナルド一号店、銀座にオープン！／一九〇〇億円を吸い上げた元祖ネズミ講「天下一家の会」の"虚構"／"ドル・ショック"日本経済を直撃「一ドル＝三六〇円」時代が終わった！／中国現代史最大のミステリー 林彪墜落死事件の「真相と犯人」

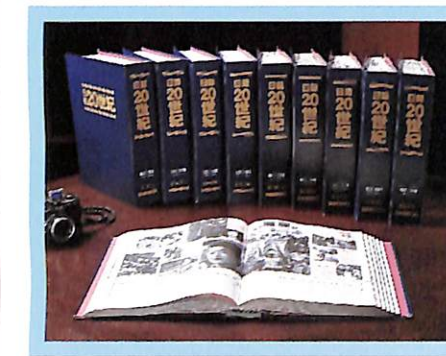
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…三島由紀夫葬儀（1月24日）／ロサンゼルスで大地震（2月9日）／強姦殺人魔、大久保清逮捕（5月14日）／江夏、オールスター戦で九連続奪三振（7月17日）／天皇・皇后訪欧（10月5日）／土田警視庁警務部長宅に小包爆弾（12月18日）

●人物クローズアップ
ボウリングの"女王"中山律子

●決定的瞬間
苦く無惨なラオス"侵攻"作戦

●美の出会い
記念タバコまで出た「ゴヤ展」超人気

●女たちの肖像…今井通子、アルプス三大北壁征服／勝者・敗者…輪島功一、「カエル跳び」で世界王者に／証言・あの日この日…赤瀬川原平、佐藤栄作／20世紀博物館…世界のタイル博物館（愛知）／「現場」を歩く…多摩ニュータウンの欠落部分／外から見たNIPPON…「抵抗詩人」金芝河の三島批判

●ベストセラー…『日本人とユダヤ人』の読まれ方／スターと名場面…「八月の濡れた砂」と挫折感／モノ語り'71…「カップヌードル」「オールアルミ缶ビール」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中
バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号1959［昭和34年］ 第2号1964［昭和39年］ 第3号1945［昭和20年］ 第4号1970［昭和45年］ 第5号1963［昭和38年］ 第6号1958［昭和33年］ 第7号1972［昭和47年］ 第8号1980［昭和55年］

第9号1976［昭和51年］ 第10号1989［平成元年］ 第11号1960［昭和35年］ 第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］

第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］

第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］ 第30号1973［昭和48年］

■今後の刊行予定
▶第31号1974〔昭和49年〕9月16日発売
少女マンガの黄金時代●"金脈"をあばいた立花レポートで田中首相辞任へ●セブン-イレブン開店●ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任
▶第32号1975〔昭和50年〕9月22日発売
赤ヘル軍団初優勝●「紅茶きのこ」と健康法ブーム●中国の秦始皇帝陵で兵馬俑発掘●サイゴン陥落！30年にわたる"ベトナム戦争"終結
▶第33号1977〔昭和52年〕9月30日発売
キャンディーズとピンク・レディー旋風●王貞治、ホームラン世界一を達成●"安宅マン"3600人の悲劇●ウガンダ、アミン政権の残虐恐怖政治
▶第34号1978〔昭和53年〕10月7日発売
日本全土で、カラオケ爆発的ブーム●新実力者・鄧小平来日●「サラ金地獄」で自殺者180人！●英国で世界初の試験管ベビー誕生
▶第35号1979〔昭和54年〕10月21日発売
インベーダーゲーム、大流行●「ジャパン・アズ・ナンバーワン」刊行●大ヒット商品「ウォークマン」開発物語●ホメイニ師、イランに帰国

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1923
●関東大震災！
9月9日号
第1巻第28号 通巻28号
平成9年9月9日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士 発行所 株式会社 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
発行人 丸本進一 （編集）03-3944-1295 （販売）03-5395-3604
定価560円 本体533円

PILOT

スパルタ品質。

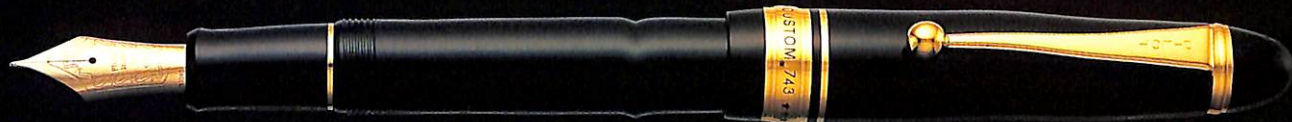
跳ね、払い、押さえ。日本の文字の特質を知り尽くすとペン先はどこまでも鍛えられる。

「永」。この一字の中に運筆のすべてが集約されるという。パイロットは日本人のあらゆる筆致に対応すべく、日本の文字の基本を見つめることから万年筆を開発。まず強度と柔軟性が同時に求められる地金部分は14Kがベストであると判断し、ペンポイントには超硬質の合金イリドスミンを溶接。そして毛筆を思わせる、しなやかさと弾力、滑らかな書き味を具現化し、書き手の嗜好に合わせ8種類のペン先を用意。書くという個性の表現にプロのまなざしと技で徹底的に臨む。これがパイロットの第一義である。

空気の流れ、インキの流れを追求していくと溝の切り方にも違いが出る。

そもそも毛細管現象により、文字が書ける万年筆。そのペン芯は空気溝、インキ溝、余分に流れ出るインキを溜めておく櫛溝から成る。単純な構造だが、それゆえ奥が深い。僅かな気圧・気温の変化でも、インキの流れに影響を与える。↗ボタ落ちがなく、いかなる場合でも最善の書き味を約束するためには、ひときわ精密な溝の設計、細部への入念さが不可欠だ。結果、コンバーターでインキを補充する際、インキ壜にペンの首までどっぷり浸ける必要がない吸入機構をも実現。精緻であるからこそ、ペン先を紙に当てた瞬間、人間本来の繊細にして温かい感覚が込み上げてくる。それがパイロットの誇りとするところだ。

ステイタスを飾る美しさだけではない。「万年」筆であるためには堅牢さも要求される。

鞘、軸と呼ばれる万年筆のボディ。そこにはいつまでも損なわれることのない美しさと強さを求め、アクリル樹脂を採用。ポケットに入れて服地と擦れ合っても、失われない光沢。手に力がこもっても、しなりのある腰。掌になじむ肌触り。それは単なるステイタスシンボルではない、実際に用いられてこそ真価を主張する「万年」筆であるために。そしてすべては時代が変わっても裏切ることのない品質のために。ペン先からボディに至るまで一貫生産して世に送り出すこと。これこそパイロットの信念である。

カスタム 743FKK-3000R-B 30,000円

ぬくもりを伝えるものだから、
こだわりを持ってつくりたい。

CUSTOM

シャープペンシル、ボールペンもあります。

カスタム 74HKK-1000R 10,000円

カスタム 74BKK-1000R 10,000円

（価格は税抜き）

雑誌 23702 9/9 T1123702090564
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社